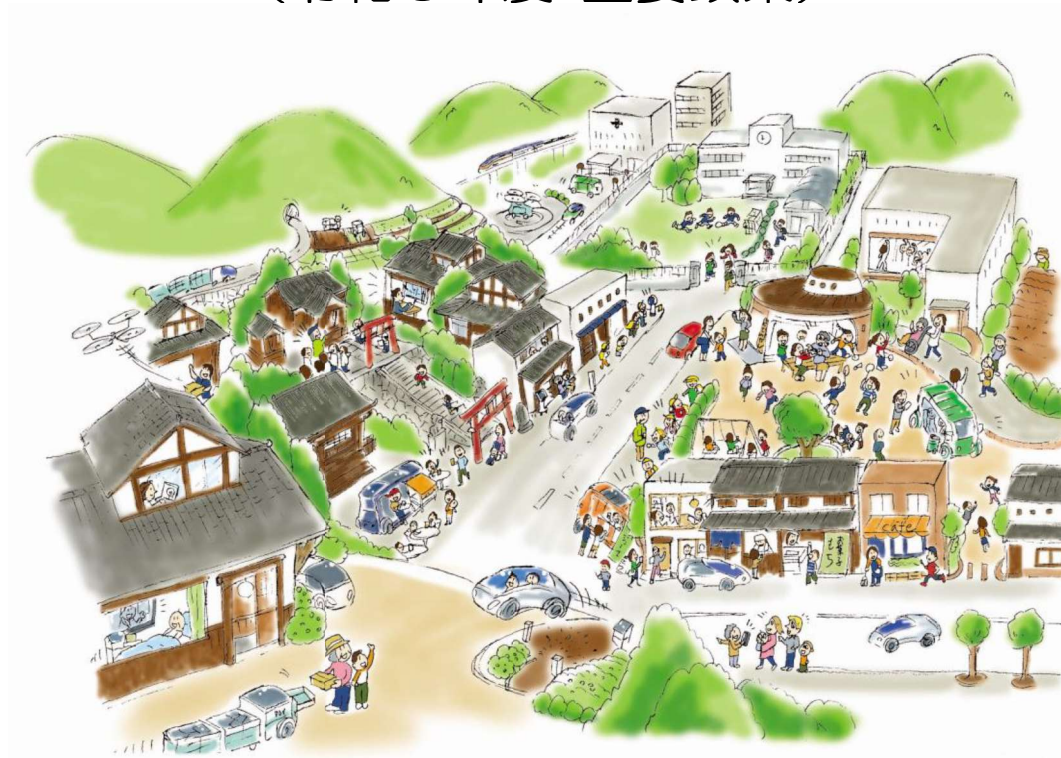


未来をつくる実践目標

# チャレンジ 2021

【ver.3】

(令和3年度 主要政策)



令和4年4月

福井県

# はじめに

福井県では、「2040年のふくい」の将来像を県民の皆さんと共有する「福井県長期ビジョン」を令和2年7月に策定し、長期ビジョンに基づく県政運営を行っています。

このため、令和2年度から、毎年度、県がどのような姿を目指し、どのような政策を進めようとしているのかを、「実践目標」として長期ビジョンの体系で整理し、県民の皆さんに分かりやすくお示ししています。

また、長期ビジョンでは、北陸新幹線福井・敦賀開業を迎えるこの5年間に最重点化して実行する政策を「新時代スタートアッププロジェクト」と位置付けており、その主なプロジェクトを冒頭にまとめています。

今回、令和3年度の進捗状況および政策の成果をとりまとめました。

各政策の実行に当たっては、県民、市町、企業、団体の皆さんとの連携を重視し、「チームふくい」で進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

分野ごとの主な施策（主な施策ごとの進捗状況は、県未来戦略課HPをご覧ください）

令和4年3月時点

分野	目指す姿	主な施策		目標（KPI）	
		ver.1	ver.3	ver.1	ver.3
学びを伸ばす（人材力）	17	122	122	111	114
成長を創る（産業力）	18	98	101	91	93
楽しみを広げる（創造力）	16	121	123	127	129
安心を高める（地域力）	16	83	83	98	99
ともに進める（総合力）	9	23	24	20	20
合計	76	447	453	447	455

※ver.1は年度当初の計画。ver.3は年度末の状況。年度途中で、必要に応じ施策の追加、見直しを行っています。

# 目次

令和3年度の主な成果	1
------------	---

## 新時代スタートアップ主要プロジェクト

(1) ふくいエンタメ計画	8
～ふくいの魅力をとがらせよう～	
(2) 次世代チャレンジ宣言	12
～チャレンジで未来をつくろう～	
(3) しあわせアクション運動	17
～一人ひとりがプレイヤーになろう～	

分野別の主要政策別 令和3年度の主な成果	20
----------------------	----

## ≪巻末資料≫

未来をつくる実践目標「チャレンジ2021」	
結果概要について	41

## 令和3年度 分野別の主要政策（別冊）

### I 学びを伸ばす（人材力）

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成	3
政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり	16
政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	20
政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援	28

### II 成長を創る（産業力）

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ	34
政策6 地域経済のイノベーション	43
政策7 Society 5.0時代の新産業創出	50
政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ	56

### III 楽しみを広げる（創造力）

政策9 100年に一度のまちづくり	60
政策10 北陸新幹線開業効果を最大化	69
政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略	77
政策12 文化・スポーツがふくいの活力	82

### IV 安心を高める（地域力）

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル	88
政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉	91
政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持	96
政策16 防災・治安先進県ふくいの実現	101

### V とともに進める（総合力）

政策17 「チームふくい」の行政運営	109
政策18 広域パートナーシップの強化	113

**参考** 持続可能な開発目標（SDGs）

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指し、国際社会が協調して取り組む世界共通の目標です。

2030年を年限とする17のゴールの下に、169のターゲット、232の指標が定められており、日本においては、「あらゆる人々の活躍の推進」、  
「健康・長寿の達成」など8つの優先課題を掲げた実施指針を策定し、取り組みを進めています。



SDGsの17のゴール（目標）

1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	10 人や国の不平等をなくそう	各国内および各国間の不平等を是正する
2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	11 住み続けられるまちづくりを	包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する
3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子の能力強化を行う	14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさを守ろう	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る
8 働きがいも経済成長も	包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。	17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーション（技術革新）の拡大を図る		

# 令和3年度の主な成果

## 県民主役の県政運営

### 福井の未来にアクション



SDGs未来都市  
福井県

「SDGs未来都市」選定



「福井の未来を担う次世代の育成」に取り組む提案が認められ、福井県が内閣府の「SDGs未来都市」に選定されました。また、日経BP総合研究所の都道府県「SDGs総合認知度」にて全国1位になりました。

長期ビジョンの普及に向けたワークショップや、県民自らがアクションを考え発信する「FUKUI未来トーク」を開催しました。

### 政策デザインの推進



県内デザイナー等との政策検討ワークショップを開催し、移住定住のPRなどの新しい政策を生み出したほか、デザインの視点や発想を学ぶ「デザインシンポジウム」を初めて開催しました。

また、外部の専門家と連携し、データ分析に基づく人口の社会減対策の検討を行うなど、デザイン思考とEBPMにより、政策の質を高める政策デザインを推進しました。

※EBPM (Evidence-Based Policy Making) エビデンスに基づく政策形成

### 市町や県外自治体等との協働強化



市長との政策ディスカッション

知事と市町長との政策ディスカッションを6回実施し、県と市町が協働で実施する事業を予算に反映しました。

また、千代田区や軽井沢町との包括連携協定を締結し、都市と地方の交流促進や、富裕層をターゲットにした魅力発信などを行いました。

## 誰もがチャレンジできる社会に

### 若者のチャレンジを応援



チャレンジ応援ディレクター・チーム

新設のチャレンジ応援ディレクターが約230名の若者と面会し、関係者等とのマッチングや情報発信を行いました。

県の若手職員が企画立案する「チャレンジ政策提案」を行い、知事に直接プレゼンし、10件が事業化されました。

### “しあわせ実感”パートナープランの策定



学生や働く女性等とのワークショップ

男女共同参画および女性活躍社会の実現に向け、3月に「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン」（第4次福井県男女共同参画計画）を策定しました。家事・育児を楽しみながらシェアすることや、女性が活躍する職場環境づくりを方向性として、家庭や仕事、地域などの5つの分野にて、各種施策を展開していきます。

### 多文化共生の推進



技能実習生と中学生のサッカー交流会

6月に「ふくい多文化共生ネットワーク」を創設し、SNSによりワクチン接種窓口などの情報を発信したほか、「ふくい多文化共生推進応援金」により、多文化共生への取組みを後押ししました。

またロシア軍の侵攻を受けている、ウクライナへの連帯を示すとともに、避難民の受入れ支援の表明や、JA福井県と連携した食糧支援などを行いました。

## 100年に一度のまちづくり

### 新幹線駅と周辺のまちづくりが進展



芦原温泉駅 西口賑わい施設「アフレア」

新幹線駅の建設が進展し、県民限定の建設現場の見学会を開催しました。

福井駅前電車通り北地区A街区では建築工事が始まったほか、各新幹線駅の駅前広場や観光交流センターの整備が進みました。

また、並行在来線会社の社名を公募し、「株式会社ハピラインふくい」に内定しました。

### 広域連携による高速交通網の整備促進



北陸新幹線建設促進の中央要請

北陸新幹線建設促進同盟会の会長に杉本知事が就任するなど、沿線の自治体や経済界と連携して、金沢・敦賀間の令和5年度末までの開業、敦賀以西の令和5年度当初着工と1日も早い全線開業を政府・与党に要請しました。

また、地元関係者とともに国に働きかけ、舞鶴若狭自動車道の小浜西ICから小浜ICまでの4車線化候補箇所選定などにつなげました。

## 新幹線開業に向けた交流拡大・魅力発信

### 宿泊旅行調査の総合満足度で全国2位



オーベルジュの開発協定締結

地元ならではのおいしい食などが評価され、じゃらん宿泊旅行調査2021の総合満足度で、全国2位になりました。

オーベルジュの開発協定を締結したほか、勝山市の長尾山総合公園に星野リゾートの進出が決定しました。

六呂師高原については、モンベルと連携し、アウトドアを活かした活性化構想を策定しました。

### ふくいの食のトップブランド化



いちほまれの販売PR

「いちほまれ」を全国トップのブランドにすべく、新米の時期に合わせたCM回数の倍増や、都市圏等のローソンにて、おにぎりの販売を行うなど、幅広くPRを行いました。

本県の特徴ある在来種そばを味わってもらうため、「おいしい福井県産そば使用店」の参加店舗をめぐる「スマホでスタンプラリー」を実施しました。

## 将来を担う人材の育成

### 高校生最大のスポーツの祭典を開催



北信越総体2021総合開会式

本県が中心となり54年ぶりに高校総体を開催し、全国から選手・監督コーチ約3万5千人が参加しました。日程の短縮や原則無観客開催など、新型コロナウイルス感染防止対策に取り組みながら、高校生最大のスポーツの祭典を実施しました。

### 多様な学びの場を充実



全国初となる増養殖に特化した県立大学の新学科「先端増養殖科学科」について、新学科棟の整備や入学者の募集等を行い、令和4年4月の開設に繋がりました。

各大学と企業・市町・県が協働して、学生が学習しながら地域の課題解決に取り組むPBLを101件実施しました。

## 社会全体で子育て世帯を応援

### 「ふく育」パスポートの運用を開始



ふく育パスポート・応援団

社会全体で子育てを応援する機運を醸成するため、「ふく育」パスポートの運用をスタートしました。すべての子育て世帯と妊婦がパスポートを提示すると、優待サービスが受けられる店舗ふく育応援団の登録数が1,533箇所になりました。

### 全天候型の遊び場の整備を支援



道の駅「南えちぜん山海里」

子どもたちや親子が天候にかかわらず地域で安心して過ごせるよう、南越前町の道の駅「南えちぜん山海里」など2か所において、全天候型の遊び場の整備を支援しました。

## 攻めの移住・定住政策

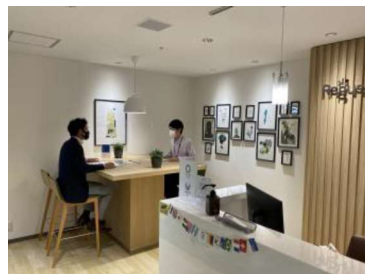
### 先輩移住者をサポーターに



移住サポーター委嘱式

先輩移住者等に、県とともに移住支援をしていただく「移住サポーター」を委嘱しました。移住相談や現地案内、情報発信等のほか、移住後の生活サポート等の活動を実施しました。

### 移住促進体制を強化



名古屋事務所

9月1日に福井県名古屋事務所を開設しました。企業誘致のほか、Uターン促進、観光誘客などを行っていきます。

福井Uターンセンターを「福井暮らしはたらくサポートセンター」にリニューアルし、マネージャーを配置するなど体制を強化しました。

## デジタルトランスフォーメーションの推進

### 知事をトップに全庁でDXを推進



第1回福井県DX推進本部会議

知事をトップとする「福井県DX推進本部」を4月に設置し、DXの推進方針に「みずから変える」「みんなで変える」「ふくいを変える」の柱を掲げました。

県および市町のDX人材の育成への支援等を行うCDO補佐官について、全国363名の応募の中から2名に委嘱しました。

知事による予算査定をWeb会議で実施するなど、庁内業務のペーパーレス化を推進しました。

### 県内企業の未来技術の活用を促進



ふくいDXオープンラボ

県産業情報センターに、県内中小企業のDX推進の拠点「ふくいDXオープンラボ」を6月に開設、5G実証環境「5G Base FUKUI」の提供を11月に開始しました。

県内企業の現場で活躍できるプログラミングスキルを持つIT人材を育成するため、「ふくいITエンジニア養成スクール」を開講しました。



## スポーツと文化で福井を盛り上げ

### 五輪・パラで本県ゆかりの代表選手が躍動



代表選手の等身大パネル

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に福井県ゆかりの代表選手20名が出場しました。金メダルを獲得した、フェンシング男子エペ団体の見延選手、野球の吉田選手、栗原選手には、県から県栄誉賞を贈呈しました。

### 魅力的なスポーツイベントの開催



「TRIAL RUN 2022」

フルマラソン大会の名称を「ふくい桜マラソン」、スローガンを「かける思い、サクラサク。」に決定、キックオフイベントとして「TRIAL RUN 2022」を開催しました。

競技志向の高いシニア世代を対象とした日本唯一の総合スポーツ大会「日本マスターズ2023」の開催地が福井に決定しました。

### 一乗谷朝倉氏遺跡の魅力を発信



周遊バス「騎馬武者号」

落語家 春風亭昇太師匠に「一乗谷朝倉氏遺跡名誉お屋形さま」を委嘱し、全国への魅力発信を依頼しました。

一乗谷朝倉氏遺跡博物館の開館に向け建築工事を進めるとともに、戦国期の町並や賑わいを体感できるARの制作や周遊バスのリニューアルを進めました。

## ものづくりから価値づくり

### 高付加価値企業等の立地を促進



IT人材の受け皿となるオフィス進出

知事のトップセールス等を通じた誘致活動により、若者や女性が働きたくなる環境を備えた企業や、IT人材の受け皿となる新たなオフィス等の進出を実現しました。

また、産業技術総合研究所「北陸拠点」の誘致について経済産業省に要請し、福井県での整備が決定しました。

### 未来技術を活用したプロジェクトも誘致



雪道での早期の滞留検知の実証

自動車の走行データや気象情報・SNS情報をAIで分析し雪道における早期の滞留検知を行う実証実験など6件の未来技術活用プロジェクトのほか、Smart City X Project内で実際の運転挙動データを分析し隠れた交通危険エリアを可視化する実証実験を行いました。

### 農林水産業の成長産業化



坂井市のニンジンタウン

GPS田植機の実演会等によるスマート農業モデル経営体の育成や、品目毎に1億円の産地を目指す園芸タウンの整備を行いました。

また、水産増養殖の共同研究のための水産学術産業拠点施設の整備なども行い、農林水産業の成長産業化を進めました。

# 安全・安心対策の充実

## 人生100年時代を支える福祉・医療



ジェロントロジー共同研究締結式

東京大学と第4期ジェロントロジー共同研究（総合長寿学）の協定を締結し、高齢者の健康づくりや就労等支援を実施していきます。

5月には、ドクターヘリの運航を開始し、県内全域を概ね30分以内で医師の初期治療が受けられる体制を整えました。

## D X を活用した地域防災力の向上



避難所運営のDX化

災害時の避難所運営をスムーズに行うため、SNS等を活用し、一斉受付や避難人数の自動集計が可能となるシステムを構築しました。

除雪車に搭載されたGPSを活用し、「みち情報ネットふくい」上で、除雪状況の見える化を図りました。

# コロナ対策と経済活動の両立

## 全国に先駆ける「福井モデル」



入院・検査調整の一元化により保健所負担を軽減し、濃厚接触者に限らない幅広い検査など、徹底した積極的疫学調査を実施しました。

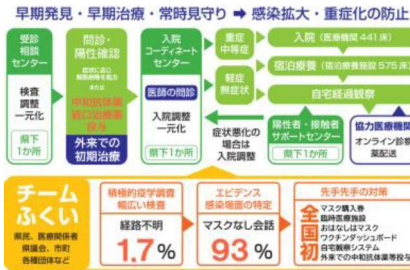
そこから得られる感染状況のデータに基づき、「おはなしはマスク」の徹底や、県境を越える往來の自粛などの対策を講じました。

また、変異株の流入に伴い、若年層の感染が増加したため、8月を「ワクチン接種集中期間」とするなど、若い世代を中心に接種を呼びかけたところ、10代のワクチン接種率が全国トップクラスとなりました。

医療関係者の意見を基に、福井市内の体育館に軽症者向け臨時医療施設を設置するなど、チーム福井で全国に先駆けた取り組みを行い、医師が選ぶ新型コロナ対策の評価で2回連続全国1位、日本経済新聞の調査で全国1位になりました。



## 第6波への対応



第6波では、無症状や軽症の感染者の増加に伴い、全国初の自宅観察システムを構築し、地域の協力医療機関と連携したオンライン診察や薬局による薬の配送等を実施しました。

また家庭内の感染対策の強化やワクチンの3回目接種の促進などを行いました。

## 経済再生を全力応援

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者に対し、支援金を支給し、事業継続を強力に支援しました。

衣料、眼鏡、地酒等の業種限定や市町連携の「ふく割」、ふくいdeお得キャンペーン、「ふくい安全・安心認証店」を対象店としたGoToイートなどにより、感染対策を徹底しながら、経済再生を図りました。



新時代スタートアップ

# 主要プロジェクト

2020年～2024年の合言葉は \\ とんがろう、ふくい //  長期 VISION  
新時代スタートアップ★プロジェクト

ふくいの魅力をとがらせよう

～ふくいエンタメ計画～

観光や文化、スポーツなどの  
とがった魅力でたくさんの方を  
呼び込もう！  
みんなが楽しめるまちを作ろう！

チャレンジで未来を作ろう

～次世代チャレンジ宣言～

おもしろい仕事を  
みんなで増やそう！  
みんながしあわせな、  
新しい働き方を実現しよう！

一人ひとりがプレイヤーになろう

～しあわせアクション運動～

一人ひとりのできることを考えて、  
持ち寄ろう！  
みんなの「小さなアクション」を  
積み重ねて、ふくいを変えよう！



## (1)ふくいエンタメ計画 ～ふくいの魅力をとがらせよう～

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、  
県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなで作ります。

### ○観光・まちづくりに重点投資

#### 新幹線駅周辺のまちづくり

北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出します。

#### ■ 福井駅西口市街地再開発への支援

福井駅前電車通り北地区において、A街区では建築工事等に対する支援、B街区では建築設計等に対する支援を行いました。



#### ■ 福井駅周辺のにぎわいづくりに向けた官民連携によるまちづくりの推進

「県都にぎわい創生協議会」において、ランドデザインや令和4年度から実施するプロジェクトの具体化に向けた検討を行いました。



#### ■ 福井城址活用検討懇話会において、福井城址の将来のあり方に関する提言をとりまとめ

「福井城址活用検討懇話会」において、福井城址活用に関する提言をとりまとめました。



#### ■ 各新幹線駅の駅前広場や観光交流センター等の整備促進

芦原温泉駅の西口賑わい施設や、福井駅、越前たけふ駅の観光交流センター、敦賀駅の新幹線駅前広場などの整備に対して支援を行いました。



芦原温泉駅 西口賑わい施設「アフレア」パース図

#### ■ 観光型MaaS導入に向けた検討

観光型MaaSの導入に向け、市町や交通事業者等との検討会を開催しました。また、JR西日本が、観光型MaaS導入に向けた実証実験を行いました。



#### 観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や観光列車の運行などを推進し、新幹線開業に向け、誘客を拡大します。

#### ■ 恐竜博物館のフルモデルチェンジに向け、整備等に着手

恐竜博物館の機能強化について、増築部分にかかる建築工事および展示工事に着手しました。



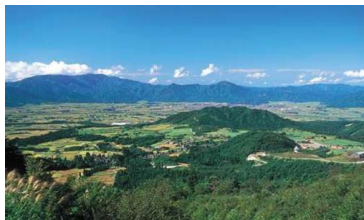
#### ■ 東尋坊・三方五湖エリアにおける観光拠点整備を支援

東尋坊の駐車場一元化や、三方五湖ライン山頂公園、新レークセンター等の整備を支援しました。



■ **六呂師高原**の活性化策や誘客の柱となる事業の検討

六呂師高原活性化構想の策定に向け、アウトドアメーカーのモンベルと連携し、活性化構想を策定しました。



■ **嶺南広域サイクリングルート**の受入環境を整備

6月に若狭湾サイクリングルート推進協議会を設立し、自転車の駅の整備等を進めるとともに、ルートや愛称、ロゴマークを決定しました。



■ 東尋坊や三方五湖周辺への**リゾートホテル誘致**

リゾートホテルの誘致先となる候補地等について、検討を進めました。  
また、勝山市の長尾山総合公園に星野リゾートの進出が決定しました。

■ 福井を舞台とした**大河ドラマ**や**朝ドラ**の誘致

誘致に向けて、NHK本局の幹部や関係者へ福井の先人などの題材を提供しました。

■ 「**日本一選ばれるお米いちほまれ**」に向け販売店舗を拡大

JAと一体となった販売促進活動、量販店が行うキャンペーンを支援することにより、取扱店舗数を前年から500店舗拡大したほか、10月からの新米の時期に合わせてCM回数を倍増し、12月には都市圏等のローソン約8,800店舗でのおにぎり販売を行うなど、幅広くPRを行いました。



■ 「**日本一のそばどころ**」ふくい全国発信

本県の特徴ある在来種そばを広く味わってもらうため、「おいしい福井県産そば使用店」の参加店舗をめぐる「スマホ de スタンプラリー」を3回実施し、のべ3,300名以上の方に参加いただきました。



■ 県下統一ブランド「**ふくい甘えび**」と「若狭ぐじ」「越前がれい」の発信

5月に開催した新たなブランド「ふくい甘えび」のお披露目会において、規格とロゴを発表し、鮮度の良さやサイズの大きさを県内外にPRしました。また、10月には「越前がれい極」とともに銀座料理飲食業組合連合会の食味会で提供しました。

加えて、「若狭ぐじ極」は京都の飲食店にサンプルを提供し、認知度向上と販路拡大を図りました。



■ **新しい代表食材5品目**の一体的プロモーション強化

そば、越前がれい、若狭ぐじ、甘えび、さかほまれ地酒のPR動画を制作しました。11月に首都圏飲食フェア、12月に有楽町駅での福井マルシェ、2月にハビリンにおける代表食材メニューフェアを開催し、また開催にあわせて街頭ビジョンで動画を放映しました。



■ 都市圏のターゲット層に対して「**売り**」となる**必食の逸品**の創出

既存の食材や料理から福井らしい「売り」となる料理を開発するため、「食で稼ぐ秘訣塾」を開催。113名の事業者等が参加し、10品目の試作を行いました。



■ 「**食文化魅力創造スクール**」による人材育成

新型コロナウイルス感染の状況や飲食店などの経営状況などを踏まえて、開設時期を来年度とし、今年度は、シラバスの作成など準備を進めました。



■ 一流シェフによる地域の食材を活かした**オーベルジュ**の誘致

オーベルジュの誘致に向けて、整備のための支援制度を創設するとともに、整備に向けた協定を民間事業者と締結しました。



■ JR 小浜線における**観光列車**の乗り入れ・モニターツアーの開催

「丹後くろまつ号」の小浜線乗り入れは、新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ中止したものの、駅からの周遊ツアー等を企画しました。



令和2年度「丹後くろまつ号」運行の様子

■ インバウンド対策 **Wi-Fi・キャッシュレス決済・免税店**の整備

重点整備エリア内において実施する多言語標識等の設置や Wi-Fi の整備など市町の取組みを支援し、福井市、小浜市、大野市、坂井市、高浜町の5市町で整備されました。



■ 関西の学生と協働し、**嶺南地域のPR動画**を制作

関西圏の学生を対象にプロモーションビデオの企画を募集し、採用した学生5グループによる YouTube 動画の公開やSNSを中心としたプロモーション活動により、若者目線で、広く嶺南地域の魅力を発信しました。



関西の学生グループが制作した嶺南地域PR動画

○ **国体レガシー**を活かし、「アスリートの聖地」へ

**スポーツによるまちづくり・交流人口拡大**

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

■ **アスリートナイトゲームズ**などスポーツイベントの開催支援

福井発の陸上競技会、アスリートナイトゲームズが開催され(8月)、国内トップクラスの陸上選手の競技を約 1,900 人が観戦しました。



■ **フルマラソン開催**に向けた機運醸成の推進

2024 年春に開催する「ふくい桜マラソン」に向け、マラソンコースや開催日などを盛り込んだ実施計画を策定しました。また、キックオフイベントとして「TRIAL RUN 2022」を開催しました。



■ トップスポーツチームを「**ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUI RAYS)**」

として徹底応援

FUKUI RAYSによる試合会場やショッピングセンター等の街なかでのミニスポーツイベント開催を支援し、県民がスポーツに触れ、楽しめる機会を創出しました。



■ 「**スポジョブふくい**」によるアスリートのUIターン推進

「スポジョブふくい」によるアスリートの就職支援を実施し、令和4年春採用の 27 人が内定しました。また、令和5年春就職に向けたインターンシップ参加等スカウト活動を実施しました。



## ○まちと暮らしに音楽・アート

### デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる「おもしろい」まちづくりを進めます。

### ■ 若手アーティストによる「まちかどミニコンサート」開催

10月から3月にかけて、県内17市町の身近な施設で福井ゆかりのアーティストによるコンサートを開催しました。



### ■ 誰もが発表できる「まちなかステージ」設置支援

5月から、ハピテラス・アップルロード・西武福井店正面入口横に、「まちなかステージ」を設置し、利用を開始しました。



### ■ 同人誌販売会の開催などサブカルチャーの応援

新型コロナウイルス感染症の影響により「こみつくまつり」の開催は中止となりましたが、来年度に向け、幅広い世代で楽しめるサブカルチャーイベントの開催について検討を進めました。

### ■ 一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の建設推進

令和4年10月の開館に向けて博物館の建築工事や朝倉館原寸再現・石敷遺構・巨大ジオラマ等の展示工事を令和4年1月に完了しました。



### ■ 一乗谷朝倉氏遺跡におけるAR制作や周遊バスリニューアル

令和4年10月のサービス提供開始に向け、戦国期の町並や賑わいを体感できるARの制作を進めるとともに、令和4年4月から運行を開始する周遊バスをリニューアルしました。



### 伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

### ■ 丹南伝統工芸産地における本物体験プログラムの造成

丹南広域観光協議会における、伝統工芸の体験を含むタクシープランなどの旅行商品の造成を支援し、本物体験プログラムを拡充しました。



### ■ 話題性のある企業等とコラボした伝統工芸ブランド「FUKUI TRAD」の商品開発

産地と人気クリエイター集団「ペリメトロン」とのコラボにより、現代のライフスタイルに合わせた皿や酒器など14商品を開発し、1月から販売を開始しました。



## (2)次世代チャレンジ宣言 ～チャレンジで未来をつくらう～

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

### ○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

#### 多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

#### ■ 知事のトップセールスによる先端企業の誘致促進

企業立地セミナーでの知事トップセールスやオンラインセミナーなどを通じた誘致活動により、若者や女性が働きたくする環境を備えた企業や、Uターン者・理系人材の受け皿となる企業の進出を実現しました。

また、産業技術総合研究所「北陸拠点」の誘致を経済産業省に要請し、福井県での整備が決定しました。



#### ■ 高付加価値企業や、都市圏同様の待遇の維持など魅力ある企業を誘致

県が推進するプロジェクトと連携する企業への補助制度新設や、都市圏と変わらない給与や待遇の企業への上乘せ支援などで、小さくても魅力ある企業の誘致を推進し、IT人材の受け皿となる新たなオフィスや研究開発拠点などの本社機能が進出しました。



#### ■ 名古屋事務所を開設し中京圏の企業誘致をはじめUターン等を強化

9月に名古屋事務所を開所し、企業や大学訪問、観光・物産PRを開始しました。

また、11月には、企業立地セミナーを開催し、中京圏の企業、約110社に、本県の災害リスクの低さをアピールするなど、企業誘致やポートセールスを展開しています。



### 「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

#### ■ 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで**有望ベンチャーを育成**

若手起業家が集う経営塾・セミナーの開催や、専門家による経営戦略のブラッシュアップの支援により、機運の醸成とベンチャー企業の成長支援に取り組みました。また、「福井ベンチャーピッチ」を開催し、5社が登壇、252名が参加しました。



#### ■ 将来の地域の担い手となる**持続力のある創業者の育成**

県内市町や商工団体等と連携し、県内創業者158名に対し、初期費用を助成するとともに、事業計画作成支援や継続した経営指導を実施しました。



#### ■ 従業員や産地内企業、移住者など**第三者への承継支援を強化**

事業引継ぎ14例に対して、売り手・買い手それぞれに奨励金を支給し、県内事業者の第三者への事業引継ぎを推進しました。



#### ■ 働きやすい職場づくりに取り組む「**社員ファースト企業**」の拡大

すべての働く人が安心して働き活躍できる職場を実現するため、県内企業による働きやすい職場環境づくりへの支援や取組事例の積極的な発信により、「社員ファースト」宣言企業は157社に拡大しました。





## 成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

### ■ 企業による**超小型人工衛星のビジネス創出**を支援

量産型衛星の開発に向けた県外大学等との共同研究2件に対して支援を実施しました。また、人工衛星の設計、製造に関する研修を開催し、6企業・団体が参加しました。



### ■ **成長産業参入への可能性試験・調査**を支援し、企業の稼ぐ力を向上

宇宙、ヘルスケアなど成長産業への参入を検討する企業の可能性調査試験4件に対して支援を実施し、本格的な事業化に向けた課題抽出や知見の蓄積がなされました。



### ■ **嶺南Eコースト計画**に基づくスマートエネルギーエリアの形成

嶺南各市町のスマートエネルギーエリア形成を支援する補助事業を創設。おおい町では、うみんぴあエリアに建設中のSEE SEA PARKへの再エネ設備導入に向けた調査・設計、高浜町では、お試し居住など移住定住を促進するスマートタウン整備のための調査への支援を行いました。



SEE SEA PARKの完成イメージ

### ■ ICTを活用した**スマート農業**を推進

GPS田植機等の実演会や推進大会の開催、ICT農機の導入支援、GPS基地局の利用拡大により、22のスマート農業モデル経営体を育成し、4,180haの水田でスマート農業を導入しました。



### ■ **園芸タウン**の整備による園芸産出額の拡大

品目毎に1億円の産地を目指す園芸タウンづくりがスタートし、地区協議会が5月に坂井市(ニンジンタウン)、7月に美浜町(キュウリタウン)において設立され、ニンジン収穫機やキュウリ栽培ハウス等が整備されました。



### ■ **農遊コンシェルジュ**の育成、**農遊スタンプラリー**で農村回遊を促進

6月から農遊コンシェルジュ育成研修を実施し、114名を認定しました。  
また、県内の直売所や観光地103か所を繋ぎ、旅行者が農村を巡って楽しむ農遊スタンプラリーを10月から開催し、4,200名以上の方が参加しました。



### ■ 県産材を使う「**ふくいの木づかい企業**」を増やし、民間施設での利用を拡大

県内企業を対象とした木づかいセミナーや県産材製品を活用する施設などを巡る見学会の開催などを通じ、県産材利用に対する理解を深め、56社の企業を、自発的に県産材を使う「ふくいの木づかい企業」として登録しました。



### ■ 産学官連携でサーモンやサバの共同研究などを行う**水産学術産業拠点**の整備に着手

小浜市堅海の水産研究・教育機構の土地と建物を9月に取得し、増養殖事業者の技術開発に必要な施設に改修しました。新年度より産官学連携でトラウトサーモンやサバの生産拡大のための共同研究を開始します。



■ **農家レストランや観光農園**を整備し、農山漁村の交流人口拡大

令和4年春に予定している美浜町の道の駅「はまびより」の開業に向けて、増加が見込まれる観光客を農山漁村に呼び込み、回遊の拠点となる観光農園の整備を支援し、その結果、令和4年1月に開業しました。



○ **次世代を担う人材の輩出**

**AI時代に活躍する人材育成**

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

■ デジタル技術の導入支援や、有識者や外国人エンジニアのサポートで**企業のDXを推進**

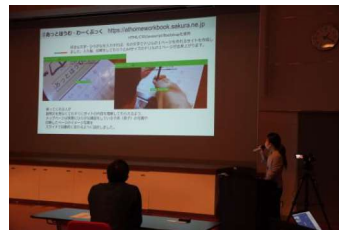
ふくい産業支援センターのDX戦略アドバイザーや専門家等によるDX推進チームを4月に新設し、県内企業のDXを推進する拠点として「ふくいDXオープンラボ」を6月に開設しました。

また、11月には5G実証環境「5G Base FUKUI」の提供を開始し、東京都に本社を置くIT企業が入居しました。



■ 学生、転職者等を対象にITスクールを開講し、企業の**IT人材を育成・確保**

プログラミング技術を短期集中で学ぶ「ふくいITエンジニア養成スクール」を8月に開講し、33人のIT人材を育成し、6人の就職が決定しました。また、受講生を応援する32社のサポーター企業と連携し、交流会やインターンシップなどを実施しました。



■ IoT・AI・ロボット等の先端技術の導入による企業の**業務効率化、高付加価値化**

DX専門家(ITコーディネーター)を県内企業に無料で派遣し、50社のデジタル技術等の導入に向けたヒアリング・指導・助言等を実施しました。また、13社のデジタルツール等の導入を支援し、県内企業の業務効率化等を促進しました。



**産学官連携による地域人材の輩出**

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

■ 県立大学に「**先端増養殖科学科**」を新設

令和4年4月の全国初となる増養殖に特化した新学科の開設に向け、7月から初年度の入学者の募集活動を開始し、選抜試験を実施しました。



■ **ふくいアカデミックアライアンス(FAA)**による大学連携強化

県内高校から県内大学への進学率を高めるため、各大学において入試対策講座を実施しました。また、県内大学生のキャンパスライフを紹介する大学共同パンフレットを作成しました。



■ 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「**ふくい創生人材**」を輩出

新型コロナウイルスの影響を受けながらも、各大学と企業・市町・県が協働して地域の課題解決に取り組むPBLを101件実施しました(企業・団体等70件、自治体31件)。

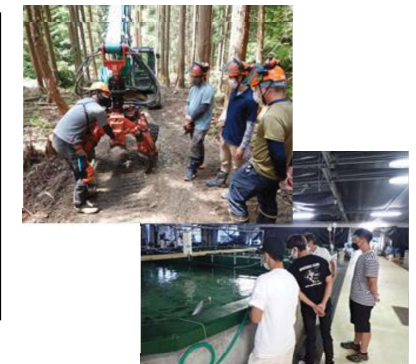


■ 園芸・林業・水産カレッジにて**次世代の農林水産業人材**を育成

園芸カレッジには、今年度、新たに30名が入校し、模擬経営研修や栽培技術研修を始めました。また、昨年度の入校生28名が研修を修了し就職しました。

林業カレッジには、今年度、新たに9名(長期5名、短期4名)が入校し、県内の林業事業体に就業しました。

水産カレッジには、今年度、新たに7名の入校があり、新規就業者数は21名となりました。



## ○日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくるとともに、「子どもさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくり出す。

### ■ ふくい結婚応援協議会を核としたオールふくいの結婚支援

福井市と連携し、県全域の独身者を対象とした婚活スクールを開催しました。

また、県全域の独身者を対象としたツアー型の婚活イベントを開催しました。



### ■ 「ふくい婚活サポートセンター」におけるAI活用のマッチングシステム運用

システム利用登録料半額キャンペーン(4～9月:20代向け、10～3月:女性向け)の実施により、若い世代や女性の婚活参加を促進しました。



### ■ 多子世帯への支援を第2子からに拡大「子どもさんふくいプロジェクト」

市町と協働し、年収360万円未満世帯を対象に、第2子保育料無償化や一時預かりサービスの利用料等の第2子無償化を進めるなど子育て支援を実施しました。



### ■ 第2子以降の3歳未満児童の「在宅育児」の支援

市町と協働し、年収360万円未満世帯を対象に在宅育児応援手当の支給を実施しました。



### ■ 不妊治療休暇や短時間勤務など子育てしやすい職場環境の整備

SDGsパートナーや経営者団体を通じ、企業に対し、従業員が出産・子育てしやすい職場環境づくりを進める奨励金の活用について周知しました。



### ■ 在宅で子育てしやすいテレワーク環境づくりの推進

県内企業における新しい働き方の一つとしてテレワークの実施を後押しするため、7社のテレワーク導入を支援するとともに、新たな導入や定着を促進するため、オンラインセミナーを開催しました。



### ■ シニア世代による子育て応援や父親の家事・育児スクール開催

シニア世代などを対象とした子育て支援者養成講座を2市町で開催し、シニア世代の子育て参加を促進しました。



### ■ 「ふく育」応援団によるすべての子育て家庭と妊婦の応援、子育て情報の一元化

10月1日から、「ふく育」応援団参加店による、ふく育パスポート登録者への優待サービスを開始しました。同時に、県子育て応援サイト「ふく育」を開設し、子どもや子育てに関する情報を一元的に発信しました。



■ 地域における**全天候型の遊び場**の整備を支援

南越前町の道の駅「南えちぜん山海里」など計2箇所に遊び場を整備しました。



■ **フォスタリング機関**を設置し、里親の確保と質の高い里親養育を実現

4月にフォスタリング機関を設置するとともに、里親支援事業の一部(広報・研修)を民間団体に委託し実施しました。



### (3)しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになるう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る  
「県民総参加」の社会をつくります。

#### ○県民の“夢実現”を徹底応援

##### 県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

#### ■ 若者の交流拠点「ふくい若者ステーション」を県内各地に設置

「ふくい若者ステーション」運営者向けに、地域内での発信力を高めるための研修を、5月、6月に行いました。



#### ■ 若者による若者応援組織「ふくい若者フォーラム」の活動支援

福井を盛り上げるアクションを起こしたい若者が集まり、「ふくい若者ミライ会議」を9月、10月、2月に開催しました。64名の若者が、地域で活躍するプレイヤーから直接アドバイスを受け、活動の第一歩を踏み出しました。



#### ■ 若者・女性・NPOのチャレンジプランコンテスト開催と徹底応援

新設の「チャレンジ応援ディレクター」が、これまで約230名の若者と面会し、関係者等とのマッチングや各種メディアで情報発信を行いました。

また、県民ワクワクチャレンジプランをコンテスト形式により17件採択するとともに、応募プランを支援し、実現を後押ししました。



#### ■ ふるさと納税活用のクラウドファンディングによる県民活動応援

ふるさと納税を活用し、16事業のクラウドファンディングを応援しました。その結果、13事業が目標金額を達成し、地域住民による水中花火の打ち上げなどが実現しました。



#### ○課題解決へ県民アクション

##### 県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を上げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

#### ■ 将来構想実現に向けた県民主催の「FUKUI未来トーク」開催

長期ビジョンの普及に向け、学校や企業等でワークショップを29回開催しました。また、県民が自らのアクションを考え、発信する「FUKUI未来トーク」を5回開催し、うち2回は今年度から実現したオンラインでの開催となりました。



#### ■ 「SDGsパートナー」の登録拡大と活動活性化を推進

「福井の未来を担う次世代の育成」を中心とした持続可能な地域づくりの提案が認められ、福井県が内閣府の「SDGs未来都市」に選定されました。取組みの一環として、「ふくいSDGsパートナー」の有志による次世代育成のためのプロジェクトチームを立ち上げ、高校生を対象としたワークショップ・プログラムを作成しました。



■ 県内デザイナーとの協働による「政策デザイン」の展開

県内デザイナー等との政策検討ワークショップを22回、デザイナーとともに潜在的ターゲットとなる現場へ出向くヒアリング調査を4回実施し、移住定住のPRなど新たな政策が10件生まれました。

また、政策デザインを県内外に発信し、デザインの視点や発想を学ぶ「デザインシンポジウム」を初めて開催しました。



■ 「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン～第4次福井県男女共同参画計画～」を策定

未来の男女共生社会や女性が活躍する社会に関し、学生や働く女性、子育て世代の1ターン者らとワークショップを交えた意見交換を行いました。

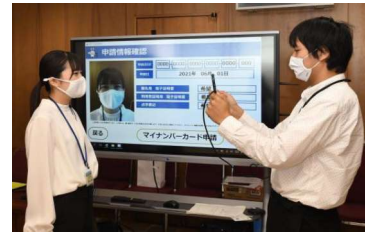
また、男女共同参画の有識者で構成する審議会およびパブリックコメントでいただいたご意見を踏まえ、計画を策定しました。



■ 県と市町協働による課題解決策の検討やシステム共同化を推進

市町と協働した施策を推進するため、知事と市町長との意見交換を6回行い、新型コロナ対策や観光・まちづくり等に向けた市町からの提案を6月・9月補正予算、当初予算に反映しました。

また、県・市町が協力し、マイナンバーカードの取得促進キャンペーンや出張申請受付に取り組んだ結果、全国順位は前年度末の35位から21位と上昇幅は全国1位となり、普及率は49%に達しました。



○ローカルチャレンジ「移住するならふくい」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

■ アートキャンプなど学生の地域滞在型キャンプの地域拡大

今年度から新たに小浜市でもキャンプを実施しました。新型コロナウイルスの影響により、夏休み中の実施を見送り、秋以降、週末等を活用し、小規模のキャンプを継続的に実施するとともに、オンラインでの交流や京都事務所での活動展示を行いました。



■ 県、市町、民間団体等連携の「多文化共生ネットワーク」を創設

「ふくい多文化共生推進ネットワーク」を創設し、SNSで情報共有するとともに、「ふくい多文化共生推進応援金」により4団体を支援し、多文化共生への取組みを後押ししました。



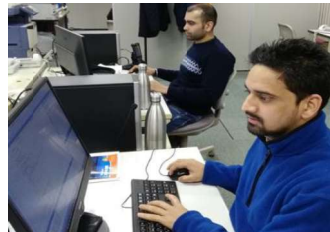
■ 関西の学生グループを組織化し、県内企業を取材・発信

関西在住を含む県外学生グループが、県内企業20社を取材し、県内企業や県内での働き方の魅力をSNS等で発信しました。



■ 就業・生活環境整備や技能力向上支援など外国人が住み・働きやすい環境整備

外国人労働者の就業・生活環境の改善、地域との交流イベント等の開催に取り組んだ企業29社を支援しました。また、受入団体等が行う技能実習生の技能向上講習会の開催経費を支援し、外国人が働きやすい環境を整備しました。



■ 都市人材を呼び込む「地方兼業」の取組み拡大

都市部の専門人材を地方兼業により未来戦略アドバイザーとして、データサイエンティスト、CDO補佐官を各2名委嘱しました。県庁職員向け「データサイエンス活用セミナー」等の実施、事業へのデジタル技術やデータ利活用の相談・支援に随時対応するなど、政策の高度化に活かしました。



■ 地域との交流や体験活動を促進する「ワーケーション」の受入推進

市町と連携して、ワーケーション滞在を通して地域との交流活動を促進する地域交流型パッケージ開発を進め、県外から約100名の方が参加しました。



都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

■ しごと・宿泊・定着支援を組合わせた「移住応援パック」を開発

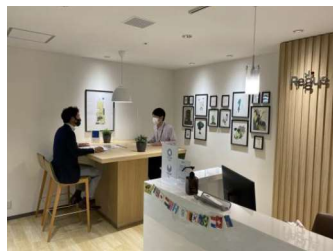
若者や子育て世帯をターゲットに、仕事や住まい、定着支援を組合わせた「移住応援パック」を企画し、10月から特設求人サイトで64社が募集しました。12月から3月に開催した移住体験ツアーにオンラインを含めて65名が参加し、企業見学や子育て施設の紹介など、福井の暮らしを体感しました。



■ 京都・名古屋事務所、ふくい暮らしはたらくサポートセンターの連携により関西・中京圏

の移住促進

新たな就職協定を、京都事務所において3校、名古屋事務所において4校締結しました。



■ 本県独自の上乗せにより「移住支援金」の対象を全国に拡大

県・市町独自の移住支援金(全国型)については、実施市町が4市町増えて9市町となり、東京圏型とあわせた支給件数は208件となりました。

■ 三大都市圏における就職支援協定大学を拡大

新たに12校と協定を締結し、協定校は47校となりました。福井県出身学生を対象に就職支援説明会の開催や支援策の情報提供を行いました。



■ 若者や子育て世代やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓

都市部の若者や子育て世帯、シングルマザーを対象にオンラインセミナーを開催しました。また、2月には、東京・大阪で子育て世帯をターゲットに、子育てのしやすさなど福井の魅力を発信する「移住フェア」を開催し、246名が参加しました。



■ 移住サポーターによる情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

6月に先輩移住者等18名と5団体を「移住サポーター」として委嘱しました。移住相談や移住の下見への同行、イベント開催など、「人が人を呼ぶ」活動を展開しました。



# 分野別の主要政策別 令和3年度の主な成果

<5つの分野>

- 将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行
- 福井の「文化」と「デザイン」の力を活かし、政策の質を向上

学びを伸ばす (人材力)	成長を創る (産業力)	楽しみを広げる (創造力)	安心を高める (地域力)	ともに進める (総合力)
ふくい人は人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代の 「健康文化」創造。 くらしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化



	政 策		重点施策	施 策
学びを伸ばす (人材力)	<b>1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成</b> ・学力・体力全国トップクラスの高い基礎力をもとに、子ども自身の個性を「引き出す教育」、好奇心や探究心を持って学びを「楽しむ教育」を推進 ・自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの個性が輝く福井の子どもの育成		<b>個性を引き出し、学びを楽しむ教育プロジェクト</b> ・少人数学級や習熟度別指導、ICTの活用等の推進 ・ふるさと教育・キャリア教育の推進、スポーツ・文化芸術活動の充実 など	○個性や主体性を発揮し、自らの可能性に挑戦する人材の育成 ○一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する教育の充実 ○郷土を学ぶ教育の推進など、ふるさとを愛する子どもの育成 ○教員の働き方改革や放課後児童クラブ等の充実など、子どもの成長を社会全体で支える教育環境の整備 など
	<b>2 ふくいの産業・社会を支える人づくり</b> ・産学官連携により、福井の産業や自然を活かした教育・研究を推進し、若者に魅力的な学びの場を創出 ・人生100年時代のリカレント教育を充実し、生涯活躍し続ける創造性豊かな人材を育成		<b>「ふくい創生人材」育成プロジェクト</b> ・魅力的な大学づくりや高校等との連携強化による県内進学への促進 ・F A A（ふくいアカデミックアライアンス）による県内大学の連携強化 など	○農や水産増養殖、古生物学の学術拠点など、新たな学部・学科の創設による若者に魅力的な大学づくり ○地域でのフィールドワークや共同研究など産学官連携による地域人材の輩出 ○多様な人生設計を支えるリカレント教育の充実 など
	<b>3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現</b> ・女性、若者、高齢者など、性別、年齢に関わらず誰もが様々なことに挑戦できる共生社会を実現 ・障がい者、外国人など多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」を推進		<b>みんなが主役「ワンチームふくい」プロジェクト</b> ・「共働き方改革」による新たなライフスタイルの実現、若者・シニアのチャレンジ応援 ・障がい者、外国人の就労や生活環境の整備 など	○家庭でも職場でもワークシェアを進め、男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現 ○若者同士のネットワークを拡大、面白い挑戦を「ちよい足し」応援 ○全世代の県民や企業等が社会貢献活動に参加しやすい環境づくり ○障がい者の就労支援や外国人が住みやすい環境の整備 など
	<b>4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援</b> ・将来を担う子どもたちを産み育てる若い世代を社会全体で支える仕組みを拡充 ・「日本一の出会い・子育て応援社会」を構築		<b>子どもさんふくいプロジェクト</b> ・多子世帯への経済的支援を2人目からに拡大 ・保育人材の確保など保育の受け皿の強化 など	○「自然な出会い」の環境づくりなど新たな出会いのサポート ○妊娠・出産前後からの切れ目ない支援体制を強化するなど安心して出産・子育てできる環境の整備 ○男性の育児・家事参加の促進やシニア・学生による子育て支援など子どもの健全な成長を社会全体で支える仕組みづくり など
成長を創る (産業力)	<b>5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ</b> ・福井の生活・文化を形づくってきた農林水産業を大切に守り、次世代に引き継いでいくとともに、その魅力を福井の発信に最大限活用 ・新技術の活用などにより、力強い成長産業にレベルアップ		<b>稼げる農林水産業創出プロジェクト</b> ・スマート技術の活用による稼げる農林水産業の実現、カレッジ等での人材育成 ・農林水産業と観光等他産業を結び付けるプラットフォームの形成 など	○スマート農業の普及や大規模経営化による生産性の向上 ○「いちほまれ」や「ふくいそば」など福井の美味しい食のトップブランド化 ○観光農園の整備など新たな交流促進による農山漁村の魅力創出 ○県産材の需要と供給を拡大し、育てる林業から稼げる林業へ転換 ○養殖生産やスマート漁業の推進など水産業の成長を促進 など
	<b>6 地域経済のイノベーション</b> ・地域内の経営資源が循環する「福井型エコシステム」の構築、デザインの活用等による地域経済のイノベーションを創出 ・新技術の活用による生産性向上や人材確保、人を幸せにする働き方改革の推進など地域経済の持続的発展を応援		<b>お金・人・技術の地域内循環・拡大プロジェクト</b> ・有望ベンチャーへの投資などスタートアップ企業の発掘・育成 ・「後継ぎベンチャー」の支援など事業創継の推進 など	○起業家による創業支援など地域内でお金や人を循環 ○デザインの力によるものづくり産地の魅力向上 ○和菓子店や酒蔵、伝統工芸などくらしに根差した小さな企業の応援 ○AI、IoT等の新技術の活用による地域企業の生産性向上や外国人材の受入促進等による人材確保 ○幸せと生産性を両立する「しあわせ働き方改革」の実行 など
	<b>7 Society5.0 時代の新産業創出</b> ・高いものづくり技術を活かした成長産業への進出や新技術を活かした高付加価値産業への転換 ・若者や女性を惹きつける企業の誘致		<b>ものづくり産業の新市場挑戦プロジェクト</b> ・生産・データ利活用の拡大、人材集積を通じ、衛星ビジネスの国内拠点を形成 ・未来型エネルギー技術や自然に優しい新素材の開発 など	○航空・宇宙、ヘルスケア産業など成長産業への進出を応援 ○AI・IoTなど技術革新を活かした新サービスの創出、高付加価値化 ○企業誘致による若者や女性を惹きつけることでの創出 ○スマートエネルギーエリアの整備や研究・人材育成の拠点形成など、嶺南「Eコース」の形成 など
	<b>8 拡大する世界市場をふくいの成長へ</b> ・成長する地域や分野など世界市場の動向を見極め、県内企業の新たな海外展開に向けた支援を強化 ・食や伝統工芸など本物の魅力を海外に売り込むなど、世界市場の拡大を本県に取込み		<b>世界市場チャレンジプロジェクト</b> ・県民・企業のニーズに即したミッション型海外事務所の設置 ・国・地域ごとのニーズに応じたプロモーションなどインバウンドの拡大 など	○アジア・環日本海諸国への進出や販路開拓の支援など海外ネットワークの充実・強化 ○福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化 ○オリンピックや大阪・関西万博等を活かした発信 ○敦賀港・福井港を活かした貿易拡大 ○環日本海、アジア、欧米諸国等との交流促進、国際人材育成 など

	政 策		重点施策	施 策
楽しみを広げる (創造力)	<b>9 100年に一度のまちづくり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>北陸新幹線などの高速交通網の整備にあわせ、新幹線駅周辺のまちづくりや二次交通を整備</li> <li>県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進</li> </ul>		<b>新幹線ゲートウェイ開発プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな4つの新幹線駅周辺のまちづくりを市町と協働し推進</li> <li>観光型 MaaS の構築 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備促進</li> <li>新幹線駅周辺のまちづくりを市町等と協働して推進</li> <li>二次交通の充実や地域鉄道等への支援など持続可能な地域交通ネットワークシステムの構築</li> <li>港・空港・道路などのふくいを支える交流基盤の整備・活用の推進</li> <li>関西との近接性を活かした「WAKASA リフレッシュエリア」の形成 など</li> </ul>
	<b>10 北陸新幹線開業効果を最大化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>誘客プロモーションによるふくいブームの創出や観光地の磨き上げ、インバウンド誘客などを集中的に実行し、新幹線開業効果を最大化</li> </ul>		<b>観光リゾートエリア形成プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>恐竜博物館、東尋坊、丹南伝統的工芸品産地、三方五湖、若狭湾など観光地のスケールアップ など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源の魅力向上や周遊・滞在を促進する仕掛けづくり</li> <li>ブランド力向上やデジタル情報の発信拡大などによるふくいブーム創出</li> <li>国・地域の特徴に応じた外国人目線のインバウンド誘客</li> <li>おもてなしの向上などリピートしたくなる環境づくり</li> <li>DMO など地域が一体となった観光産業化の基盤づくり など</li> </ul>
	<b>11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Uターン支援体制を強化するなど「待ち」から「攻め」の移住政策に転換</li> <li>交流人口の拡大や多様な福井との「関わり」から移住・定住につなげる新たな仕組みを構築</li> </ul>		<b>関係人口拡大プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外学生等の長期滞在・地域フィールドワークの促進</li> <li>テレワーク、ワーケーションなど新たな働き方による都市人材の呼び込み など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内企業と県外大学生や都市圏の地方転職希望者との接点の拡大などによるUターンの促進</li> <li>教育機関と産業界が一体となった学生の地元定着の促進</li> <li>学生を滞在させるキャンプの拡大や市町と連携した「微住」の促進 など</li> </ul>
	<b>12 文化・スポーツがふくいの活力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>長い歴史・生活が培った文化力や芸術文化への関心の高まり、国体・障スポ等を通して高まったスポーツ熱をまちづくりや交流人口の拡大に活用</li> <li>デザイン・アートの実充やフェスの開催など若者に魅力あるイベントを拡充し、楽しみにあふれるまちづくりを推進</li> </ul>		<b>文化・スポーツによる「エンタメ福井」実現プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国規模のスポーツ大会の誘致や参加型のスポーツイベントの企画・開催</li> <li>音楽フェスなどにぎわいを創出するまちなかイベントの拡大 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千年を超える本県の歴史・文化遺産などをネットワーク化し、歴史ミュージアムふくいを発信</li> <li>サブカルチャー・ポップカルチャーの振興など、「若者・よそ者」が集まるまちづくりの推進</li> <li>スポーツツーリズムの推進や県内を拠点に活躍するスポーツチームの応援 など</li> </ul>
安心を高める (地域力)	<b>13 人生100年時代の健康ライフスタイル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>何歳になっても元気なうちは社会を“支える”役割を担うという新しい高齢者観を共有</li> <li>人生100年を健康に過ごすための「ふくい型健幸サポートシステム」を構築し、福井発の「健康文化」を創造</li> </ul>		<b>ふくい発「健康文化」創造プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>血液一滴が検診の導入、ハイシルネットワークの促進など「いきが寿命」の延長</li> <li>「ふくい型健康リテラシープログラム」の開発 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フレイル予防等の促進による疾病・要介護化の徹底防止など100歳までの「健活力」の向上</li> <li>通勤や買い物での歩く習慣づくり、健康的な食生活など、日常生活の中で健康に配慮した活動ができる環境整備</li> <li>地域の健康づくりの担い手育成など住民サポートの強化 など</li> </ul>
	<b>14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療、介護、予防、生活支援がトータルで提供される「次世代包括ケアシステム」を展開</li> <li>誰もが住み慣れた地域で安心して医療や介護、福祉サービスを受けられる環境を整備</li> </ul>		<b>次世代包括ケアシステム推進プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>東大との新たな「ジェロントロジー4.0」共同研究や「回復型」フレイル予防の導入</li> <li>医療・介護に生活支援を融合 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術を活用したスマート医療、ドクタープール制度、ドクターヘリの活用等による地域医療の充実・強化</li> <li>訪問介護の提供体制の充実や医療・介護・福祉に従事する人材の確保・育成</li> <li>8050問題や育児と介護のダブルケアなど様々な課題に対応する包括的な福祉サービスの充実強化 など</li> </ul>
	<b>15 ふるさとの暮らしと風景の維持</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな技術や有償ボランティアなどの新たな共助の仕組みを活用し、いつでも安心して暮らすことができる地域を構築</li> <li>豊かな自然環境を保全するとともに、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、再生可能エネルギー導入等を推進</li> </ul>		<b>持続可能な次世代コミュニティ創出プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して暮らせる集落生活圏の形成、有償ボランティアの仕組みづくり</li> <li>ICTなど新技術の活用による地域の課題解決 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落機能維持に対する支援やICT活用による新たな共助の仕組みづくり</li> <li>歴史的まちなみや自然景観など美しい景観の保全・形成</li> <li>豊かな里山里海湖の保全と交流人口拡大への活用</li> <li>再生可能エネルギー等の導入拡大や地球温暖化対策の強化、スマートエリアの整備 など</li> </ul>
	<b>16 防災・治安先進県ふくいの実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>頻発・激甚化する自然災害に対し、県土強靱化の推進や地域防災力の向上により備えを万全</li> <li>子どもや女性、高齢者などが犯罪等に巻き込まれない安心して暮らせる社会を実現</li> </ul>		<b>安心の防災基盤強化プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害団員の確保支援や企業との連携等による防災力強化</li> <li>治水・土砂災害対策など県土強靱化の推進 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県と市町の連携強化や地域の自助・共助による防災力と新技術の力の融合による災害への対応力の向上</li> <li>インフラ老朽化対策や建設産業の担い手確保</li> <li>子ども、女性、高齢者など県民を守る犯罪・事故対策を強化</li> <li>県民の安全最優先の原子力政策の推進 など</li> </ul>
ともに進める (総合力)	<b>17 「チームふくい」の行政運営</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>徹底現場主義に基づき、県民主役の県政を実現</li> <li>市町とのコミュニケーション強化や価値創造型の政策立案の推進</li> </ul>		<b>市町協働による行政サービス向上プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政システムの共同化など県・市町共通の課題をチームにより課題解決</li> <li>市町職員の確保支援、人事交流 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徹底現場主義やクレドに基づく県民主役の県政、市町との協働強化</li> <li>SDGsの推進や政策デザインの考え方にに基づく政策立案と実行</li> <li>A I等の活用による仕事の進め方改革と人材確保・育成</li> <li>歳入確保と歳出の合理化・重点化、健全財政運営 など</li> </ul>
	<b>18 広域パートナーシップの強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方間の連携強化による高速交通網の整備促進</li> <li>広域観光の推進など、県境をつなぐインフラを活用し、人・モノ・情報の活発な交流を促進</li> </ul>		<b>地方連携による基盤整備・交流拡大プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係自治体と一体となった高速交通網の整備促進と県境フロンティア観光の推進 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速交通網の整備促進や広域観光など連携による交流拡大</li> <li>災害や疾病などに備えた広域連携の強化</li> <li>全国の自治体と連携した政策立案や国等への提言 など</li> </ul>

## 政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成

### 【政策目標】

- 一人ひとりが個性を発揮し、自らの可能性に挑戦する人材が育成されていること
- 多様な人々と協働し新たな価値を創出する人材が育成されていること
- ふるさとや自然を愛し、社会や地域に貢献する人材が育成されていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策1-1】個性や主体性を育む探究的な学びの推進

タブレット端末の先進的な活用方法を学ぶため、小中学校、県立高校、市町教育委員会に対して、タブレット端末活用校種別研修および学習支援アプリケーションブロック別研修を実施しました。

また、「引き出す・楽しむ教育」を推進するため、各小中学校において重点的に取り組むテーマを設定して実践し、特色ある学校づくりを推進するとともに、子ども同士による意見交換会や、テーマに応じた研修を開催しました。



#### 【政策1-4】新たな時代を見据えた教育環境の整備

県立高校入試にWeb出願を導入し、手続きにかかる時間の縮減を図りました。

また、県の教育の特徴や教職員の魅力を伝える動画を作成し、教育庁のYouTubeチャンネル等で発信しました。



#### 【政策1-2】一人ひとりの多様性を認め合う教育の充実

いじめ、不登校の未然防止や早期対応に向け、臨床心理士などの資格を持つ相談員の配置によるSNS等を活用した相談窓口を開設しました。

また、生徒にとって望ましい持続可能な部活動の実現を目指し、敦賀市、鯖江市および美浜町の学校で部活動地域移行の実践研究を実施しました。



#### 【政策1-5】私立学校の振興

各学校が取り組む特色ある教育活動や学業・スポーツ文化活動を支援し、魅力ある学校づくりの推進を図りました。また、職業系学科・コースの充実や地元定着を促進する取組みを支援しました。

さらに、県内の専門学校が行う入学者確保や地元就職を促進する取組みを支援しました。



#### 【政策1-3】ふるさとへの誇りと愛着を育む教育の推進

ふるさとへの理解と愛着を深め、継承発展や社会に貢献しようとする心を育むため、地域の魅力を伝える「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」や「ふるさと福井CMコンテスト」を開催しました。

また、社会教育関係団体が公民館等と連携して実施する、SDGsの理念に沿った活動を支援することにより、団体の活性化を図り、地域住民の社会教育を推進しました。



## 政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり

### 【政策目標】

- 高校生の県内大学進学率が向上するとともに、大学生等の県内企業就職が増加していること
- 大学等における地域や社会のニーズに応える教育が充実し、福井の産業・社会を支える人材が輩出されていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策2-1】若者に魅力的な大学づくり

令和4年4月の全国初となる増養殖に特化した新学科の開設に向け、7月から初年度の入学者の募集活動を開始し、選抜試験を実施しました。また、県内高校から県内大学への進学率を高めるため、各大学において入試対策講座を実施しました。さらに、県内大学生のキャンパスライフを紹介する大学共同パンフレットを作成しました。



#### 【政策2-3】多様なライフコースを支える学びの充実

地元企業のニーズに応じたDX実践講座やマネジメント講座、IT人材養成講座、教員向けの理科教育支援講座など、社会人向けリカレントを県内大学において実施し、81人が受講しました。また、従業員の資格取得を支援する制度を創設した企業53社を認定し奨励金を支給するなど、県内企業が継続して人材育成に取り組む環境づくりを促進しました。生涯学習の推進として、県立図書館、若狭図書館学習センターおよびこども歴史文化館の3館が所蔵する戦前の絵葉書1,046点を文書館ホームページ「デジタルアーカイブ福井」で公開しました。



#### 【政策2-2】産学官連携による地域人材の輩出

新型コロナウイルスの影響を受けながらも、各大学と企業・市町・県が協働して地域の課題解決に取り組むPBLを101件（企業・団体等70件、自治体31件）実施しました。また、伝統工芸の技能等を学んだ伝統工芸職人塾の修了生10名が産地で就業するなど、地域産業を担う人材を育成しました。



## 政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現

### 【政策目標】

- 就業やボランティアなど、年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、一人ひとりの適性や希望に沿った活動が活発になっていること
- 多様な存在や価値観を認め合い、誰もがチャレンジできる社会が築かれていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策3-1】男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現

未来の男女共生社会や女性が活躍する社会に関し、学生や働く女性、子育て世代のIターン者らとワークショップを交えた意見交換を行いました。

また、男女共同参画の有識者で構成する審議会およびパブリックコメントでいただいたご意見を踏まえ、計画を策定しました。



#### 【政策3-4】多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」の推進

障がい者トップアスリートによる小学校等への出前講座を47回開催し、障がいのある人となない人が共にスポーツを楽しむ機会を創出しました。

また、県民に対し、共生社会の理念を周知し、意識の醸成を図りました。さらに、障がい者が生き生きと暮らせる社会を目指し、障がい者の就労や文化活動への支援を行いました。

障がい者の就労支援では、就職後の定着支援を通し65名の就労を後押ししました。

外国人との共生のため、足羽高校、武生商工高校、武生高校定時制の3校に教員、生徒・保護者間のコミュニケーションを補助するコミュニケーションサポーターを4名配置したほか、5校に多言語翻訳機を配備しました。

また、人と動物が幸せに暮らす社会の実現に向け、県内各所で動物愛護教室やふれあい・飼養体験を実施し、動物愛護の理解を深め、譲渡の促進に繋げました。



#### 【政策3-2】若者・シニアのチャレンジ応援

若者のチャレンジ応援については、福井の未来を創る若者が集まり、交流する「ふくい若者ミライ会議」を3回開催し、64名の若者が参加しました。

また、福井の活性化につながる若者の新たな活動を応援する「県民ワクワクチャレンジプランコンテスト(若者部門)」を開催し、4組のプランを採択しました。

シニアのチャレンジ応援については、シニア人材活躍支援センターのキャリアアドバイザーと求人開拓員が、高齢者のニーズに応じた求人確保を促進し、103名の就職につなげました。



#### 【政策3-3】社会貢献活動の参加拡大

仮想通貨を活用した有償ボランティアの社会実験を行い、福井市殿下地区の活性化に繋がる活動を通して、複数のボランティア団体が相互に協力し合える活動内容を意見交換し、今後共同して活動する関係づくりを行いました。



#### 【政策3-5】認知症の人やがん患者が自分らしい生活を送れる社会の実現

「認知症フレンドリー100人会議」で聞き取りした内容をもとに、企業向けの認知症の方への対応ガイドラインとして「認知症フレンドリープログラム」を作成しました。

また、学校や企業で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の普及啓発、地域での見守りを促進しました。



## 政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援

### 【政策目標】

- 将来を担う子どもたちを産み育てる若い世代を社会全体で支える仕組みが拡充されていること
- 「日本一の出会い・子育て応援社会」および希望出生率の実現に向け、合計特殊出生率が上昇していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策4-1】若者の出会いと結婚応援

ふくい結婚応援協議会（ふくい婚活サポートセンター）が運用するマッチングシステムの利用登録料半額キャンペーン（4～9月：20代向け、10～3月：女性向け）を実施し、若者の婚活参加を促進しました。

また、県全域の独身者を対象としたツアー型イベントを開催し、出会いの機会を提供しました。



#### 【政策4-3】待機児童ゼロの実現

保育人材を安定的に確保するため、保育士免許保有者に求人情報を発信するとともに、求職者と保育所等とのマッチング支援を実施しました。また、幼稚園や保育所から認定こども園へ移行するための施設整備を支援し、希望が増加している低年齢児の定員の拡大を図りました。



#### 【政策4-2】安心して出産・子育てできる環境の整備

子だくさんふくいプロジェクトによる保育料無償化や一時預かり等の利用料無償化、在宅育児世帯への手当支給のほか、子ども医療費助成など継続実施することにより、市町と協働で子育て世帯の経済的負担の軽減を図りました。

また、不妊治療休暇や男性の育児休業などの環境整備を進める企業に奨励金を支給し、妊娠・出産・子育てしやすい職場環境づくりを推進しました。



#### 【政策4-4】社会全体で子育てを応援する仕組みづくり

10月から「ふく育」応援団参加店による子育て世帯への優待サービスを開始しました。また、県子育て応援サイト「ふく育」を開設し、子どもや子育てに関する情報を一元的に発信するとともに、社会全体で子育てを応援する機運を醸成しました。



## 政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ

### 【政策目標】

- 最新のスマート技術の活用や都市と農村の交流により産出額が増加し、若者に魅力のある稼げる農林水産業にレベルアップしていること
- 小規模な農林漁家や農山漁村に暮らす女性・高齢者も生き活きと活躍していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策5-1】夢のある次世代の農業を推進

GPS田植機、自動給水栓、ドローン防除等の実演会や、最新農機を紹介するスマート農業推進大会の開催、GPS基地局の利用推進等を通じ、スマート農業を導入する経営体は新たに8経営体増えて22経営体になり、水田での導入面積も4,180haとなりました。

また、園芸カレッジ、林業カレッジ、水産カレッジ、田んぼ道場の実践的な研修により、若者や地域を支える人材が就農・就業し、即戦力の農作業員として活躍し始めました。



#### 【政策5-4】県産材の需要・供給の拡大と林業の活性化

森林資源の活用と木材の持続的な生産に向け、県内15か所20haにおいて伐採と植栽を連続して行う一貫施業などの新たな取組みを支援し、主伐や低コスト再造林を推進しました。

県産材の利用拡大については、昨年10月に福井県経済団体連合会と「ふくい県産材利用推進に関する協定」を締結しました。協定の締結を契機に開始した「ふくいの木づかい企業」の登録制度においては、企業56社から登録をいただきました。



#### 【政策5-2】「ふくいの食」のトップブランド化

首都圏スーパー3系列での福井フェアや、くら寿司全国店舗での「ふくいサーモン」提供など、県外への販路開拓を図りました。

また、「越前がれい」や「さかほまれ地酒」など代表食材のPR動画を制作し、首都圏飲食店フェアやマルシェなどの場で活用しました。

さらに、いちほまれの販売促進活動の強化や首都圏のCM回数などの倍増などにより、3月末までの販売量は前年同期比約2倍に増加しました。

また、ふくいそばを楽しく味わう「スマホでスタンプラリー」を3回実施しました。



#### 【政策5-5】ふくいの水産業のステップアップ

養殖の生産拡大に向け、「若狭まはた」の種苗出荷数を昨年の8千尾から約1万8千尾まで伸ばし、産官学連携で増養殖の共同研究を行う水産学術産業拠点施設を整備しました。

また、ブランド魚の認知度向上と販路拡大のため、県内外での試食会などのPRを展開し、あわら温泉でのメニュー化を進めました。

さらに、交流人口拡大のため、遊漁者の利便性を向上させる河川漁協の電子遊漁券システムの導入を促進しました。



#### 【政策5-3】農山漁村の魅力創出・交流人口の拡大

体験農園や農家レストランの事業者など114名を農遊コンシェルジュに認定し、直売所や観光地などを巡る農遊スタンプラリーを実施するなど、観光客が農村を回遊し、楽しむ、「農遊」の取り組みをスタートさせました。

また、里山海湖ビジネスの人材育成や地産地消のキャンペーン、小規模農家のチャレンジ活動への応援、鳥獣害防止対策の実施等により、農山漁村の魅力向上を図りました。



#### 【政策5-6】農山漁村地域の基盤づくり

老朽化した農業水利施設、治山施設、海岸・漁港施設などの機能強化や長寿命化に向けた機能保全計画の策定、長寿命化計画に基づく工事を実施したほか、ため池の豪雨・耐震対策調査を実施し、災害に強い農山漁村地域の基盤づくりを推進しました。



## 政策6 地域経済のイノベーション

### 【政策目標】

- 地域内のお金・人・技術等の経営資源が循環する「福井型エコシステム」が構築されていること
- デザインや経営革新により地域産業の稼ぐ力が向上するとともに、誰もが活躍できる就業環境が整備されていること
- 持続的に地域産業が発展し、県民生活が向上していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策6-1】「福井型エコシステム」の構築

222人の新規創業を支援するとともに、県と県内金融機関の出資による100億円ファンド「ふくい地域経済循環ファンド」の創設や「ふくいベンチャーピッチ」をはじめとした専門家、県内先輩起業家による経営指導を通して、成長意欲の高い県内企業の事業拡大等を支援しました。

また、県や事業承継・引継ぎセンターを始めとする産業支援機関等が連携した事業承継の支援により、事業承継支援件数は55件に増加するなど、第三者や親族への円滑な承継につなげました。



#### 【政策6-4】地域企業の生産性向上・人材確保

D×戦略アドバイザーと専門家等によるD×推進チームを設置し、企業のD×推進拠点として「ふくいD×オープンラボ」を開設しました。また、D×導入補助金やD×推進チームの伴走支援により、IoT・AI・ロボット・5G等を活用して業務効率化や新事業創出に取り組む16社を支援しました。



#### 【政策6-2】デザイン力で魅力あるものづくり産地を創出

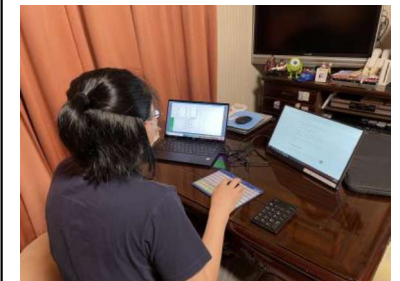
産地と人気クリエイター集団「ペリメトロン」とのコラボによる伝統工芸ブランド「FUKUI TRAD」など、デザインを活かした新商品や新ブランドの開発、新分野への進出等を支援し、国内外からの取引を推進しました。

産業観光の拡大のため、JR西日本や関西の観光DMOと連携し、福井駅、敦賀駅発着のインバウンド向けレンタカープランや若狭湾沿岸を巡るハイエンド向け旅行商品を造成しました。また、JR西日本や旅行会社と連携した観光開発プロジェクトにおいて現地視察を実施しました。



#### 【政策6-5】働く人のための「しあわせ働き方改革」を実行

働きやすい職場環境づくりや柔軟な働き方の普及を図るため、その環境づくりに取組む「社員ファースト企業」を支援しました。また、県内企業のテレワーク環境整備への支援を行うとともに、新しい働き方の導入を促進するため、オンラインセミナーを開催しました。



#### 【政策6-3】くらしに根差した小さな企業の応援

県内小売・サービス業の店舗で利用できるデジタルバウチャー「ふく割」の発行や、GoToショッピング消費喚起キャンペーンの実施により、地域経済の回復に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者に対し、支援金を支給し、事業継続を強力に支援しました。





## 政策7 Society5.0時代の新産業創出

### 【政策目標】

- A I ・ I o T などの新技術の導入が進むとともに、新市場を見据えた高付加価値なビジネスが多く生まれていること
- 県内外の若者や女性からも注目される、魅力的で多様な産業が集積する地域となっていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策7-1】成長産業へのチャレンジ応援

県内企業が東京大学や宇宙ベンチャー等とともに人工衛星に関する共同研究への支援や県民衛星が取得するデータの行政分野での利活用の推進により、宇宙産業の拠点化を図りました。また、6月には国際宇宙ステーション滞在中の星出宇宙飛行士とリアルタイム交信を行い、県民衛星プロジェクトについて紹介しました。

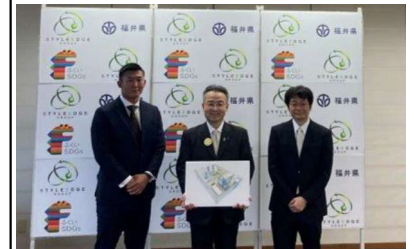
また、ふくいオープンイノベーション推進機構を中心に26件の研究開発プロジェクトを支援し、県内企業の新分野展開や新商品開発等を後押ししました。



#### 【政策7-3】多様な企業誘致の推進

県が推進するプロジェクトと連携する企業への補助制度の新設や、都市圏と変わらない給与や待遇の企業への上乘せ支援など、若者や女性が働きやすい魅力ある企業の誘致を推進しました。

また、企業立地セミナーでの知事トップセールスやオンラインセミナーなどを通じた誘致活動により、若者や女性が働きたくなる環境を備えた企業や、U I ターン者や理系人材の受け皿となる高付加価値企業の進出を実現しました。



#### 【政策7-2】A I ・ I o T など技術革新を活かした新サービスの創出

「ふくいDXオープンラボ」においてA I やR P A 等に関する勉強会・研究会を開催し、225名が参加しました。また、DX 専門家を県内企業に派遣し、50社のデジタル技術の導入に向けた指導・助言を実施しました。

I T 人材の育成・確保のため、社内人材研修を全5種開催し、延べ50社153名が参加しました。また、「ふくいI T エンジニア養成スクール」を開講し、33人が修了しました。

また、自動車の走行データや気象情報・SNS 情報をA I で分析し雪道における早期の滞留検知を行う実証実験など6件の未来技術活用プロジェクトのほか、スマートシティXプロジェクト内で実際の運転挙動データを分析し隠れた交通危険エリアを可視化する実証実験を行いました。

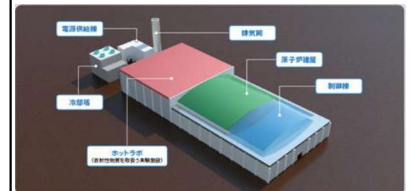


#### 【政策7-4】嶺南Eコーストの実現

嶺南Eコースト計画の推進のため、国や県、電力事業者が一体となった、官民協働の新たな推進組織を敦賀市に設置しました。

また、原子力サイクルビジネスの事業範囲や収支採算性などの事業可能性調査を実施したほか、新たに創設した補助制度による嶺南市町のスマートタウン整備への支援や、「もんじゅ」サイトに設置される新たな試験研究炉の利用が見込まれる県内企業へのニーズ調査、学生向けの講習会などを実施しました。

さらに、国が開催する「立地地域との将来像に関する共創会議」に参画し、国の提案をさらに強化する取組を提案するとともに、将来像の実現に向けた国等の取組みの具体化とスケールアップを要請しました。



新試験研究炉のイメージ図  
（国が建設する原子力発電所と併設し、原子力発電所敷地内に設置）



## 政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ

### 【政策目標】

- 世界市場につながるネットワークが充実・強化され、海外との人・物・情報の往来が活発化していること
- 様々な分野でグローバル化に対応した国際人材が活躍して海外からの注目を集め、世界市場を取り込んでいること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策8-1】海外ネットワークの新展開

中国最大規模の展示会である国際輸入博覧会および食品展示会のFood & Hospitality Chinaにおいて県内企業の出展を支援し、新たな海外取引先の獲得を後押ししました。

「ふくいパビリナスサポートセンター」において、県内企業8社の商品を計156社へ営業するなど、初めて海外バイヤーとの交渉にチャレンジする県内企業を支援しました。



#### 【政策8-3】国際交流の推進

福井県を離れる外国人に母国や他県で福井県のPRをしてもらうため、40人を友好大使に委嘱しました。

また、県内在住外国人28人をFukuiレポーターズに委嘱し、個人のSNSを通じて、観光地や食など福井県の魅力を発信してもらいました。



#### 【政策8-2】福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化

県内企業に、オンライン商談で使用する動画等の作成コンサルティングを行い、累計15社が受講しました。また、12月～2月に欧州4か国のバイヤーと県内企業18社によるオンライン商談会を開催しました。

さらには、インバウンド向けに、AI等を活用したホームページを整備するとともに、JR西日本や関西の観光DMOと連携し、福井駅・敦賀駅発着のレンタカープランや若狭湾沿岸を巡るハイエンド向け旅行商品を造成しました。



## 政策9 100年に一度のまちづくり

### 【政策目標】

- 北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道の開通などに合わせ、新幹線駅周辺のまちづくりや道の駅等の交流拠点が整備されていること
- 観光型Ma a Sや並行在来線など地域の新交通システムが整備されていること
- 国内外からの交流が増加し、賑わいにあふれるまちがつけられていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策9-1】北陸新幹線など高速交通網の整備促進

北陸新幹線については、令和5年度末の福井・敦賀開業に向けて、芦原温泉駅、福井駅、越前たけふ駅の外観が姿を現し、敦賀駅では上屋工事が始まるなど、着実に工事が進展しました。

また、杉本知事が沿線10都府県で構成する北陸新幹線建設促進同盟会の会長に就任するなど、関西をはじめとする沿線自治体や経済界と連携して、敦賀以西の令和5年度当初の着工と1日も早い全線開業を政府・与党に要請しました。

中部縦貫自動車道大野油坂道路については、令和8年春に全線が開通する見通しであることが国土交通省から公表されました。大野～大野東間のすべての橋梁工事に着手し、大野東～油坂間ではトンネル掘削が進捗するなど、全区間において着実に工事が進められました。

また、舞鶴若狭自動車道においては、高速道路の暫定2車線区間における4車線化の候補箇所として、小浜西～小浜間の約7.6kmが新たに選定され、全線の4車線化に向け前進しました。



#### 【政策9-3】地域の新交通システムの構築

地域鉄道事業者の企画乗車券について、スマホアプリによりキャッシュレスで購入することが可能となりました。また、JR西日本が、観光型Ma a Sの導入に向けた実証実験を行いました。並行在来線については、沿線市町や経済団体、利用者団体等とともに、運行計画や利用促進策など基本事項を定めた経営計画を決定しました。

#### モバイルチケット



#### 【政策9-4】飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用

県境道路である冠山峠2号トンネル（仮称）の覆工完了や、新九頭竜橋（仮称）の上部工架設の完了など、物流・交流を支える基盤の整備を推進しました。

敦賀港については、鞠山南地区の拡張整備において、岸壁本体工事が1月に完了し、ふ頭用地造成は、約9割の埋立てが完了しました。また、船社への支援制度の拡充や継続的な誘致活動により、新たに韓国航路を開設しました。

#### 新九頭竜橋（仮称）



#### 【政策9-2】新幹線駅周辺のまちづくり

福井駅西口の市街地再開発を支援し、福井駅前電車通り北地区A街区において建築工事に着手されるなど事業の推進を図りました。

また、各新幹線駅では越前たけふ駅線や芦原温泉停車場線などアクセス道路の整備を行うとともに、各新幹線駅の駅前広場や観光交流センター等の整備を支援しました。

さらに、「県都にぎわい創生協議会」においてランドデザインの骨子案作成に向けた検討を行い、「福井城址活用検討懇話会」においては、福井城址活用に関する提言をとりまとめました。



#### 【政策9-5】「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

関西圏の学生を対象にプロモーションビデオの企画を募集し、採用した学生5グループによるYouTube動画の公開やSNSを中心としたプロモーション活動により、若者目線で嶺南地域の魅力を発信しました。

また、敦賀駅・美浜駅と三方五湖を結ぶ路線バスの実証運行を支援し、アンケートを通じて主な利用者層を把握するとともに、フリーパスによる利用促進・周遊促進効果等を検証しました。



## 政策10 北陸新幹線開業効果を最大化

### 【政策目標】

- 県民一人ひとりが観光の将来性、自らが果たすべき役割等に対する理解を深め、観光客目線の情報発信やおもてなし等に取り組むこと
- 誰もが福井に魅力を感じて来県し満足する、ふくいブームが創出され、持続的に発展していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策10-1】観光客の心をつかむ魅力づくり

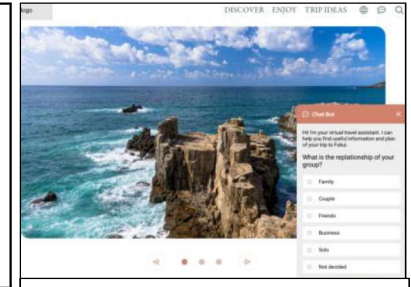
恐竜博物館については、機能強化に伴う増築工事および展示工事に着手しました。また、東尋坊や三方五湖エリアなど観光地の再整備や若狭湾サイクリングルート整備事業への着手、民宿改修への支援等により、県内観光地の磨き上げを加速しました。

丹南伝統的工艺品については、体験メニューの開発や産業観光施設の整備とともに、RENEWや千年未来工芸祭の開催を支援し、産地の魅力を全国に発信しました。



#### 【政策10-3】世界を魅了するインバウンド強化

インバウンド向けに、AI等を活用したホームページを整備するとともに、JR西日本や関西の観光DMOと連携し、福井駅・敦賀駅発着のレンタカープランや若狭湾沿岸を巡るハイエンド向け旅行商品を造成しました。



インバウンド向けホームページのイメージ

#### 【政策10-2】ふくいブームの創出

「地味にすごい、福井」をテーマにした動画を広く募集し、チーム福井で県外に向けて福井の魅力を発信しました。

また、福井のキラコンテンツである「ZEN」をテーマにしたツアー企画や動画を制作しました。

さらに、多くの旅行者が利用する羽田空港において、巨大クリスマスツリーとコラボした福井県ならではのプロモーション活動を実施しました。

アンテナショップのリニューアルオープンに向け、銀座エリアでの移転先物件および銀座・南青山の両拠点の運営事業者を決定しました。

西武福井店においては、「恐竜」をテーマに恐竜グッズ販売やイベントを実施する「ダイノデパートin西武福井」を開催しました。



#### 【政策10-4】すべての人が満足できる観光環境づくり

福井市、小浜市、大野市、坂井市、高浜町が重点整備エリア内において実施する多言語標識や無料Wi-Fi整備等を支援しました。

また、おもてなし宣言291の登録・実践、おもてなし規格認証の取得とともに目標数を超える事業者に参加いただき、県民や観光事業者によるおもてなしの取組みを拡大しました。



多言語標識の整備例



#### 【政策10-5】観光産業化の基盤づくり

県版DMOである福井県観光連盟に、観光地域づくりマネージャーと観光スーパーバイザーを配置し、地域の観光を担うプレーヤーを支援しました。

また、福井県観光アカデミーを開講し、地域の観光を牽引するリーダーおよび観光ビジネスを実践するプレーヤーを育成しました。



## 政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略

### 【政策目標】

- 都市部の社会人や学生など、多様な形で福井と関わる人が増え、県内各地で賑わいや活力が生まれていること
- 福井への移住や県内定着が増加し、社会増が実現すること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策11-1】産学官連携による学生の県内就職の促進

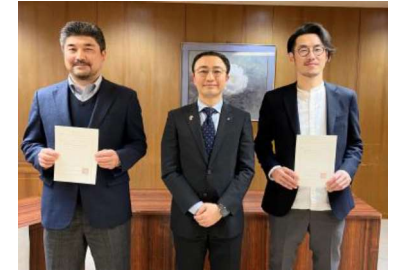
高校生の「起業家精神」を育むため、起業家によるオンライン講演を実施したほか、県独自のビジネスアイデアコンテストを開催しました。  
また、UIターン奨学金返還支援や理系学生を対象とした企業見学ツアー、企業技術者と学生が交流する業界研究会の開催等により、理系学生の県内就職を促進しました。



#### 【政策11-3】関係人口の創出・拡大

都市部の専門人材を兼業人材として活用する未来戦略アドバイザーにデータサイエンティストおよびCDO補佐官を各2名任用し、データを活用した政策立案や調査項目設計・分析、DX人材育成への助言・支援を受け、デジタル県庁の高度化に努めました。

学生が多い京都市内に、県外学生と県内地域とを結びつける中間支援拠点を置き、坂井市および小浜市における学生の地域滞在キャンプの実施を支援しました。



#### 【政策11-2】都市部への「攻め」の移住政策

先輩移住者等を「移住サポーター」として委嘱し、移住相談や移住の下見への同行など「人が人を呼ぶ」活動を展開しました。また、若者・子育て世帯向けに「移住応援パック」の発信や、移住体験ツアー、移住フェアの開催等により、移住定住を促進させました。

さらに、行動科学（ナッジ）の知見を活用し、都市部の若者世代向けに、本県での育児中の女性の働きやすさ、生活コストの優位性や時間的ゆとりなど、福井で暮らすメリットを性別・年代別にWeb広告で配信し、移住政策の効果的な訴求方法を検証しました。



育児中に就業できない女性の割合が  
**東京の約半分の**  
この県に移住しませんか？

もっと知りたい方はコチラ >

〇〇県の待機児童ゼロ、育児中の女性の有業率約81%。  
一方、東京都の待機児童は2,318人、育児中の女性の有業率は約61%です

この県に移住せず東京に住み続けると  
60歳までに約**3,600万円損**します

もっと知りたい方はコチラ >

大学卒業後、60歳までの家計支出を〇〇県と東京と比較すると、  
〇〇県に住み続けた方が約3,600万円安くになると試算されています。

## 政策12 文化・スポーツがふくいの活力

### 【政策目標】

- 感動とにぎわいが生まれる文化・スポーツのイベント・大会が持続的に開催されること
- 国内外から多くの参加者が福井を訪れ県民と交流するとともに、日頃から文化芸術やスポーツを楽しむ県民が増えていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策12-1】歴史ミュージアムふくいの発信

一乗谷朝倉氏遺跡博物館については、令和4年10月の開館に向けて建築工事を進め、令和4年1月に工事を完了しました。

また、遺跡現地においても、戦国期の町並や賑わいを体感できるARの制作を進めるとともに、周遊バスをリニューアルしました。6月には、NHK大河ドラマ放送にあわせて、出演者を招いたトークショーを開催するとともに、県内のゆかりの地を紹介しました。

本県ゆかりの先人を学ぶこども歴史文化館などと連携し、小中学校や地域住民へ文化財の魅力を伝える出前授業・出前講座を開催しました。



#### 【政策12-3】スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

2024年春に開催する「ふくい桜マラソン」に向け、マラソンコースや開催日などを盛り込んだ実施計画を策定しました。また、2年前のキックオフイベントとして「TRIAL RUN 2022」を開催しました。

さらに、競技団体の中核的な指導者の世代交代を円滑に進めるため、「指導者としての考え方」をテーマに若手指導者を対象にしたトップ指導者育成研修会を開催しました。



#### 【政策12-2】デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

11月13日、14日に福井中央公園において、ワンパークフェスティバルを開催しました。

また、ヤマハミュージックジャパンと協働して進める、音楽を活用したまちづくり「おとまち@福井プロジェクト」の一環で、4市町において新たな音楽サークルが設立され、3月に合同でデビューコンサートを開催しました。



## 政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル

### 【政策目標】

- 県民が100歳まで幸せに生きることを目標とした「ふくい型健幸サポートシステム」に基づき、健康リテラシー教育の実践や健康づくり、運動習慣等に関する県民行動が改善されること
- 何歳になっても支え手として活躍できる社会の実現に向けた第一歩が踏み出していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策13-1】100歳までの「健活力」の向上

東京大学と第4期ジェロントロジー共同研究（総合長寿学）の協定を締結しました。  
令和3年度～令和5年度の研究期間中は、  
①高齢者の健康づくり（フレイル予防プログラムの推進・フレイル予防のための食生活）  
②高齢者の就労等支援の実施  
を研究テーマとして、人生100年時代の健康ライフスタイルを推進していきます。



#### 【政策13-3】地域の健康づくりに専門家を活用し住民サポートを強化

各市町において、新たにフレイルサポーターを149名養成しました。またフレイルチェックを103回実施し、延べ1,293名の方にご参加いただきました。  
ふくいフレイルサポーターの会を立ち上げ、より一層、住民主体型のフレイル予防事業を推進しました。



#### 【政策13-2】日常生活の中に仕掛ける健康づくりを促進

大豆製品を取り入れた栄養バランスの良い献立レシピ「ふくい・勝ち飯」を味の素と共同開発し、食堂において提供するとともに、量販店やイベント会場にて普及・啓発活動を実施しました。  
スポーツ面では、見延和靖選手など福井県ゆかりのオリンピック・パラリンピック出場選手によるトークイベントや、スケボー、ボルタリングなどのスポーツ体験に加え、eスポーツ等も体験できる「はぴりゅうフェスタ」を開催しました。  
また、ショッピングセンター等でスポーツの体験会等を開催しました。  
県民スポーツ祭については、60競技126部門で開催し、県民がスポーツを楽しむ環境づくりを推進しました。



## 政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉

### 【政策目標】

- 施設や地域における医療、介護等を担う人材が確保されていること
- 「次世代包括ケアシステム」が構築され、症状や本人の希望に応じた医療・介護サービス等を県内どこでも受けられる体制が整備されていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策14-1】「地域完結型」の医療体制の確立

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市町等と連携してワクチン接種を推進するとともに、1日あたり8千件超の検査体制や、宿泊療養施設を含め1,000床超の受入病床を確保しました。

5月には、ドクターヘリの運航を開始しました。県内全域について概ね30分以内で医師の初期治療が受けられる体制を整え、311件出動しました。

また、自治医科大卒業医師やドクタープール医師等の派遣調整を行い、令和4年度は前年度より12人多い73人を医師不足医療機関に派遣します。



#### 【政策14-3】「次世代包括ケアシステム」の推進

次世代型の地域包括ケアシステムを推進していくため、高齢者の就労や交流を支援しました。就労支援に関しては、東京大学が開発した就労マッチングアプリ「GBER（ジーバー）」を活用し、福井県生活協同組合をモデル団体として社会実験を開始しました。

交流支援に関しては、福井市および勝山市において地域住民主体の自動車送迎による高齢者の外出支援の取組みを支援しました。



GBER ふくい版

メールアドレス

メールアドレスを入力してください

パスワード

パスワードを入力してください

パスワードを表示する

ログイン

#### 【政策14-2】「スマート医療」の推進

県民に高度な医療を提供するため、患者への負担が少なく高度な手術ができる手術支援ロボットを導入し、10人の患者に対して手術を行いました。



#### 【政策14-4】包括的な福祉相談体制の構築

教育、労働、福祉分野が連携した福井型就労支援プロジェクトチームを立ち上げ、発達障がい者の就労を支援するための新しい就労の在り方を検討しました。





## 政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持

### 【政策目標】

- 都市部との交流の増加やシェアサービス、有償ボランティア等の新たな共助の仕組みの構築などにより、地域コミュニティが持続して運営されていること
- 県民一人ひとりの環境を守り、活かす行動が進み、豊かな自然環境や美しい景観が磨かれていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策15-1】「住みやすさ改革」による豊かな地域コミュニティづくり

地域課題解決に向けた新たな取組みを実証するため、3地区において、住民がドライバーとなる有償旅客運送の実証運行や地域通貨の利用に向けたHPの開設等を行いました。また、地域住民が寄り合って集落活動を行い、地域のつながり力を強化するための「福井ふるさと茶屋」を5地区整備しました。

空き家の活用や取り壊しについては、購入やリフォーム等に対する補助を実施し、空き家の活用と発生予防、既存の生活圏への誘導を促進したほか、地域への悪影響が大きい老朽空き家等110戸を除却しました。



#### 【政策15-3】里山里海湖の保全・活用

若狭三方縄文博物館との特別企画展合同開催や琵琶湖博物館での水月湖年縞展示の連携企画を実施し、年縞博物館の魅力充実を図りました。

また、令和4年2月に海外研究者と国際年縞研究会議を開催し年縞研究を推進しました。令和3年11月には全国約5,700の博物館等の中から唯一「第2回日本博物館協会賞」を受賞しました。



#### 【政策15-2】美しい景観の保全・形成

重要文化的景観に選定された、福井市・越前町・南越前町の「越前海岸の水仙畑」の景観を紹介するため、案内看板の設置や広域ガイドマップを作成しました。また、水仙はもちろん、育てる住民の魅力も発信する、ローカルフォトスクールの開催や、収穫体験、写真のパネル展示などを学生と連携して実施しました。



#### 【政策15-4】エネルギーと資源の循環型社会の構築

企業の売電収入の一部を地域づくりに役立てる「再エネ活用地域振興プロジェクト事業」の支援により、令和3年12月に、おおい町南川の砂防堰堤を利用した小水力発電施設が稼働しました。

循環型社会の構築に向けては、「マイボトル運動推進サポーター」制度の創設やフードバンクモデル事業の実施、スーパーなどの回収拠点での統一看板掲示の呼びかけなど、プラスチックごみや食品ロスの削減、紙資源の分別強化を進めました。



## 政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

### 【政策目標】

- 災害から県民を守るための施設や情報基盤が整備されていること
- 日ごろから県民が災害に備える意識を持ち、地域で対応する力を高めて、万一の災害に対し総合力により被害を最小限にする体制が構築されていること
- 犯罪や事故が減少し、安心して暮らせる社会が実現していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策16-1】人と技術による地域防災力の向上

災害時の避難所運営をスムーズに行うため、SNS等を活用し、一斉受付や避難人数の自動集計が可能となるシステムを構築しました。  
地域の自助・共助による防災力向上のため、市町における大規模災害団員制度の導入促進・団員増員を支援しました。  
また、流域治水協議会を通じて、国、県、市町等によるワーキンググループを設置し、田んぼダムや校庭貯留等、具体的な流域治水対策を検討するとともに、二級水系の4つの河川で流域治水プロジェクトを策定・公表しました。



#### 【政策16-4】県民の安全最優先の原子力政策

美浜地域の広域避難計画に基づき、関係機関と連携した訓練を実施し、避難先の近隣市町の避難所やホテルなど新たな避難スペースを確保しました。また、LINEの活用による受付時の密対策を行うなど、感染症流行下における具体的な避難手順を確認しました。



#### 【政策16-2】災害に強く、安心して暮らせる福井の基盤を構築

吉野瀬川ダム本体の基礎掘削工事に着手したほか、浚渫・伐木等の治水対策、道路における斜面や雪対策、インフラ老朽化対策等を実施し、県土の強靭化を推進しました。  
また、県発注工事における完全週休2日制等の働き方改革の推進や、「入職促進」、「離職防止」、「新たな人材の活用」による建設産業の担い手確保に向けた取り組みを行いました。



#### 【政策16-5】拉致問題への対応

国に対し、拉致問題の一刻も早い解決を求める要望を行いました。  
また、拉致問題解決への強い意思を示すため、12月議会に出席した職員がブルーリボンを着用するなど、北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12月10日～16日）に、ブルーリボン運動を重点的に取り組みました。  
さらに、拉致問題の風化を防ぐため、啓発週間に、福井駅前や県内ショッピングセンターでチラシの配布やパネル展等の啓発活動を行いました。



#### 【政策16-3】県民を守る犯罪・事故等の対策

自治会等による防犯カメラ設置を支援するなど、地域の自主防犯力向上を図るとともに、福井県犯罪被害者等支援計画を策定し、社会全体で犯罪被害者等を支える機運を醸成しました。  
交通事故対策としては、高齢者を対象に安全性の高い自動車の購入を支援するとともに、コンビニ等と連携した反射材の無料配布など、交通事故防止対策を推進し、結果として、交通事故死者数が前年より15人減少しました。  
また、千葉県八街市の事故を受け、通学路における交通安全の更なる確保のため、関係者による合同点検および交通安全対策を実施しました。



## 政策 17 「チームふくい」の行政運営

### 【政策目標】

- 職員一人ひとりがクレドに基づき自らの判断で責任を持って行動し、徹底現場主義による県民主役の県政が推進されていること
- 健全財政が維持されていること

### 令和3年度の主な成果

#### 【施策17-1】県民主役の県政推進

長期ビジョンの普及に向け、学校や企業等でワークショップ等を29回開催したほか、県民が自らのアクションを考え、発信する「FUKUI未来トーク」を5回開催し、福井の将来像を県民の皆様と共有し、実現に向けたアクションを一緒に考えました。

また、長期ビジョン実現のため、長期ビジョン推進会議を2回開催し、各分野の実践者等からの提案を受け、県の施策に反映させました。



#### 【施策17-4】仕事の進め方改革と人材の育成

各部政策参事をメンバーとする「仕事をやめる、減らす、変える」タスクフォースを結成し、業務効率化のアイデアを洗い出し、業務の見直しを行いました。

また、知事による予算査定をWeb会議で実施するなど、庁内業務のペーパーレス化を推進しました。



Web会議で実施した予算査定

#### 【施策17-2】市町との協働強化

市町と協働した施策を推進するため、知事と市町長との意見交換を6回行い、新型コロナ対策や観光・まちづくり等に向けた市町からの提案を6月および9月補正予算案、当初予算案に反映しました。

また、県・市町が協力し、マイナンバーカードの取得促進キャンペーンや出張申請受付に取り組んだ結果、全国順位は前年度末の35位から21位と順位の上昇幅は全国1位となり、普及率は全国平均とほぼ同水準の49%に達しました。



#### 【施策17-5】健全財政の維持

政策トライアル枠予算について、43事業を実施し、4年度当初予算の30事業へ反映しました。

また、令和4年度当初予算編成とあわせて、4年度から13年度までの今後10年間の財政収支見通しを策定し、公表しました。



自転車の交通事故抑止に向けたスタントマンによる交通事故再現(政策トライアル事業)

#### 【施策17-3】未来をデザインする政策イノベーション

「ふくいSDGsパートナー」の登録数は600機関を超え、応援金やSDGsを推進する人材(講師、コンサル等)のリスト公表により、パートナー同士の新たな連携を支援しました。

また、内閣府の「SDGs未来都市」選定を受け、パートナーの有志で次世代の育成に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、高校生を対象としたワークショップ・プログラムを作成しました。

政策のイノベーションを推進するため、デザインの視点や発想を学ぶ「デザインシンポジウム」を初めて開催したほか、政策デザインに関わるデザイナーを紹介するガイドを制作しました。



## 政策18 広域パートナーシップの強化

### 【政策目標】

- ブロック知事会等を通じた国への要望など近隣県との連携により、北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備が促進されること
- 人・モノ・情報の活発な県際交流が拡大していること

### 令和3年度の主な成果

#### 【政策18-1】広域連携による高速交通網の整備促進

中部縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道、福井港丸岡インター連絡道路等の整備推進について、沿線自治体等とともに国に対し働きかけ、補正予算の確保や舞鶴若狭自動車道の4車線化候補箇所選定につなげました。

また、杉本知事が沿線10都府県で構成する北陸新幹線建設促進同盟会の会長に就任するなど、沿線の自治体や経済界と連携して、金沢・敦賀間の令和5年度末までの開業、敦賀以西の令和5年度当初着工と1日も早い全線開業を政府・与党に要請しました。



#### 【政策18-3】広域連携による防災・医療体制の強化

道路管理者や警察、气象台、自衛隊等の関係機関による、冬期の道路交通の安全確保に向けた大雪対応合同訓練を実施し、道路除雪体制を強化しました。



#### 【政策18-2】広域連携による交流の拡大

関西の観光DMOと連携し、関西を出発し、京都から福井まで若狭湾沿岸を巡るハイエンド向け旅行商品を造成・販売しました。



#### 【政策18-4】自治体ネットワークによる政策立案と提言

全国知事会議、近畿ブロック知事会議、中部圏知事会議に出席し、新型コロナウイルス感染拡大防止や、北陸新幹線などの高速交通インフラ整備、エネルギー政策について、国に提言を行いました。

また、若狭町において石川県知事と懇談し、敦賀駅での乗り換え利便性確保に合意したほか、福井市において岐阜県知事と懇談し、SDGs推進に関する連携について合意しました。



## ＜巻末資料＞未来をつくる実践目標「チャレンジ2021」の結果概要について

令和3年度の分野別の進捗状況を以下のとおりまとめました。

福井県長期ビジョン実行プランにおけるKPI および「チャレンジ2021」における実践目標の進捗については、右の5区分に分類しています。

また、達成度の割合は、以下のように算出しています。

上段 目標数から「判断時期未到来（－）」を除いたもののうち、90%以上進捗したもの（「◎」および「○」）の割合

（下段）目標数から「コロナ等特殊事情（※）」、「判断時期未到来（－）」を除いたもののうち、90%以上進捗したもの（「◎」および「○」）の割合

なお、年度途中に、新型コロナウイルス感染症対策等、必要に応じて施策を追加していますが、特殊事情により事業の中止や見直しを行った場合でも、実践目標の削除や変更は行っていません。

進捗	内容	判断基準
◎	想定を超えて進捗	110%超え
○	概ね順調に進捗	90～110%
△	対策強化が必要	90%未滿
※	特殊事情による中止、延期等	コロナ等特殊事情
－	判断時期未到来	数値の未公表

分野	長期ビジョン実行プランKPI 進捗							2021 実践目標						
	計	◎	○	△	※	－	達成度 (%)	計	◎	○	△	※	－	達成度 (%)
学びを伸ばす （人材力）	26	5	10	1	2	8	83% (94%) 15/18 (15/16)	114	30	54	8	15	7	79% (91%) 84/107 (84/92)
成長を創る （産業力）	24	4	7	0	5	8	69% (100%) 11/16 (11/11)	93	22	39	9	13	10	73% (87%) 61/83 (61/70)
楽しみを広げる （創造力）	18	1	5	0	6	6	50% (100%) 6/12 (6/6)	129	20	78	7	18	6	80% (93%) 98/123 (98/105)
安心を高める （地域力）	23	2	13	0	2	6	88% (100%) 15/17 (14/14)	99	19	47	14	13	6	71% (83%) 66/93 (66/80)
ともに進める （総合力）	7	4	2	0	1	0	86% (100%) 6/7 (6/6)	20	5	8	5	1	1	68% (72%) 13/19 (13/18)
計	98	16	37	1	16	28	76% (98%) 53/70 (53/54)	455	96	226	43	60	30	76% (88%) 322/425 (322/365)

（令和4年4月28日時点）